

おもしろい・わかりやすい・ためになる

ワイドになって進化した
世界史A教科書の決定版

明解
世界史A

特色1 おもしろい! ~生徒の興味・関心を引き出せます…………… p.4

- ◇直感的に世界史をつかめる! 大きくて迫力ある写真・絵画
- ◇世界史への共感を呼び起こす! 総勢120人に充実した「人物」コラム
- ◇新鮮な驚きを引き出す! 音楽や動物にもジャンルを広げた多様な「物」特集
- ◇人々の息吹が伝わる! 躍動感ある写真・絵画が満載の「生活・文化」特集

特色2 わかりやすい! ~初学者でも2単位でも流れがよく捉えられます … p.12

- ◇時代の大枠への理解が進む! テーマで近現代史を体系化できる特設ページ【**新企画**】
時代の大枠を見通す「章扉」と各種インデックス
- ◇世界史の流れがしっかりつながる! 地域の通史がスムーズに流れる古代・中世史
因果関係の記述が充実した近世・近代史
経済の動きがストーリーを生む戦後史
- ◇学習上のつまづきをカバー! 不足しがちな地理的認識を育む「風土ページ」

特色3 ためになる! ~世界史を学んで良かったと思えます…………… p.26

- ◇私たちと世界が結びつく! 日本史も含めた深みのある世界史記述
- ◇人々の経験を自らの気づきに! 社会のしくみの形成過程を掘り下げたコラム
- ◇現在と過去が結びつく! 現代の社会的課題から世界史を振り返る巻末特集



↑ ①ダヴィッド「ナポレオンの戴冠式」 ナポレオンの母マリアは実際には欠席したが、ナポレオンが出席したように描かせた。〈ルーヴル美術館蔵〉

ここに注目

戴冠式で皇帝に冠を授けるのは、従来は教皇であった。しかし、ナポレオンは自ら冠をかぶったあと妻にもかぶせた。その行動はナポレオンのどのような考えを表しているのだろうか。

3 ナポレオンの支配からウィーン体制へ

革命は終わった

激動が続いたフランス革命を収束させたのは、イタリア遠征をはじめあいつぐ戦勝で国民的英

【写真・絵画】～大きくなってさらにビジュアルに！

大胆なレイアウト、迫力あるビジュアルな写真・絵画で、時代のイメージを膨らませながら世界史学習に臨めます。

「革命は終わった」と宣言した。自ら第一統領となって統領政府をつくり、フランス銀行の設立、徴兵制による国民軍の創設など内政改革を断行した。また、民法典(ナポレオン法典)を制定し、革命で激しく論議された所有権を確定するなど、革命の成果を明文化した。こうした改革の成功を背景に、1804年にナポレオンは国民投票によって皇帝となった(第一帝政)。

ナポレオンのヨーロッパ支配

ナポレオンは、領土拡大事業にもものりだし、1806年神聖ローマ帝国を消滅させ、兄弟を王

【本文・補足解説】～丁寧になってさらに理解しやすく！

文章を補充してより丁寧な記述にすることで、読みやすく、理解もしやすい内容にしています。

して人々の支持を集めようとした。プロイセンのように近代化に向

● ナポレオン法典(抜粋)

〈野田良之〉

【所有権の絶対】
545条 何びとも、公益上の理由にもとづき、正当な事前の補償を受けるのでなければ、所有権の譲渡を強制されることはない。

ワイド
になりました

封建制の廃止を再確認し、所有権の自由、家族関係の強化を柱とする近代市民法原理を確立、日本の民法典に影響を与えた。

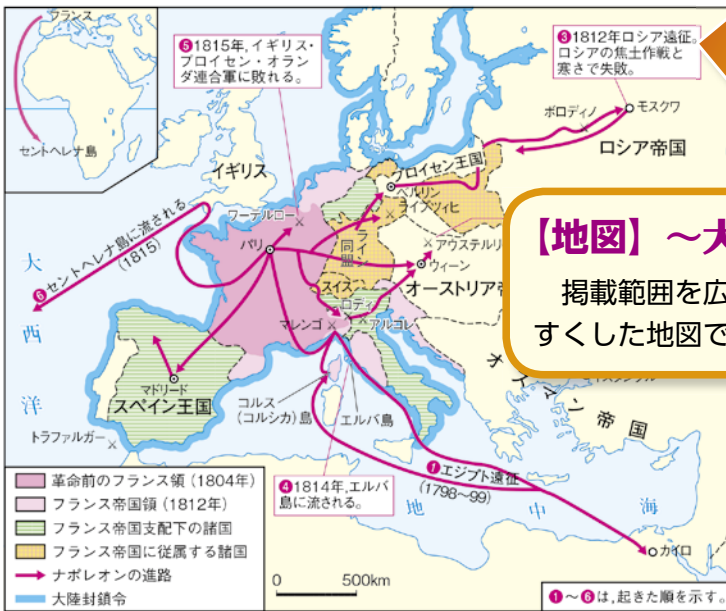
ナポレオンを崇拜し、そして憎んだ ベートーヴェン 1770~1827



彼はナポレオンをフランス革命の理想を実現する人物と考えてたえ、交響曲第3番「英雄」を作曲した。しかしナポレオンが皇帝になった

という報を聞き、「それではあの男もただの(権力欲にとりつかれた)人間にすぎなかったのか」と叫びながら、ナポレオンへの献辞を引きさいて床に投げつけたと伝えられる。

ヨーロッパ



【地図】～大きくなってさらに読み取りやすく！

掲載範囲を広げたり要素を補ったりして、見やすく読み取りやすくした地図で、歴史の舞台をイメージしやすくしています。

レオン軍が処刑する場面を描いた、スペイン人画家ゴヤの絵。

→④ロシア遠征
ナポレオンは冬の寒さと食料不足から多くの兵をこの遠征で失うこととなった。



↑②ナポレオンのヨーロッパ支配

けた改革を自ら行った国もあり、この結果、彼の大陸支配...
革命の原理がヨーロッパ諸国に広まることになった。
→p.114

【側注欄】～充実してさらに活用しやすく！

ワイドになった側注欄を活かし、本文に関する資料やコラムを充実させたことで、より効果的に資料を活用しながら学習を行えます。

メッテルニヒとウィーン体制

ナポレオンの失脚後、フランス革命以来の変化
に対処するため、オーストリア外相メッテルニヒ

ヒを中心にヨーロッパ諸国代表によるウィーン会議は、革命前の君主に正統な支配権を認め
づき、各国を革命以前の状態に戻すことを決定した。これにより、
フランスなどをはじめ各地で王政が復活した。またロシア皇帝の提

諸国の君主が加入し、オーストリア・プロイセン・
ロシア・イギリスの間では自由主義運動を抑える国際協力を目的と

した四国同盟(のちフランスが加わり五国同盟に)が結ばれた。この
結果成立した復古的で反動的な国際秩序をウィーン体制という。し
かしヨーロッパ各地で、自由主義とナショナリズムの動きが強まっ

ていった。
→p.116

資料集でおなじみのAB判を採用！

※平成25年度版(B5判)よりも、左右に56mm分
広がっています。



↑⑤ウィーン会議「会議は踊る」
ナポレオンのエルバ島脱出まで、交

**ワイド
になりました**

② ロシア皇帝の主導の下、オーストリア皇帝、
プロイセン王がキリスト教の正義・愛・平和の理
念にもとづく協力を掲げて同盟を結び、イギリス
王・ローマ教皇・オスマン帝国スルタンを除く、
ヨーロッパの全君主が加盟した。自由主義、ナシ
ョナリズム運動の抑圧を理念的に支える役割を果た
した。

③ 精神的・経済的・政治的自由を基本的人権と
する思想。市民革命では封建制度を批判する思想
として革命を支えた。

特色1

おもしろい! ~生徒の興味・関心を引き出せます

直感的に世界史をつかめる! 大きくて迫

平成29年度版



場面が探しやすい大きさに!

↑ ①「清明上河図」 宋(北宋)の都開封では、居住区や商業地のにぎわいは城外に広がり、これまで城内を土塼によって囲う閉鎖的な構造は崩れ、商店が街路に面して並んだ。下を通過できるようにつくられたアーチ状の橋にさしかかる船が、大あわてで帆柱を倒している。〈北京 故宮博物院蔵〉

ココに注目

写真①の中で、商業の発達がはっきりと認められるものには、どのようなものがあるだろうか。

4 諸民族によって統治された時代

唐の崩壊後の10~14世紀の東アジアは、中国

↑ p.22

平成25年度版

→p.24

大きくてイメージ しやすい導入資料

写真などの導入資料が、ワイドになってさらに見やすくなりました。時代の特徴につながる各テーマのポイントも、捉えやすくなっています。



力ある写真・絵画



① 西部 カリフォルニアでの金の採掘の様子



② 北部 ニューヨーク周辺の様子(1880年)



③ アメリカ合衆国の領土拡大



④ 南部 綿花プランテーションの様子

ここに注目

北部と南部の産業の違いは何だろうか。また、金の発見により人口が増えた西部では、先住民はどうしたのだろうか。

5 南北戦争と戦後の発展

西部の発展

アメリカ合衆国の領土は、19世紀半ばには太平洋岸まで到達した^③。ヨーロッパから移民が流入して人口も急増したが、彼らの多くが開拓農民となって西部に向かったた^{→日本}かいたく

↑ p.124

資料を読み解くおもしろさがわかる「ここに注目」

写真や地図などの導入資料を見るポイントを示しています。探す、比べるなどの作業を取り入れ、楽しみながら世界史を学べます。また、アクティブラーニングでの課題設定の際には、議論を深める効果的な発問としても活用できます。

見やすさを追究した製本

従来と比べて丈夫で、より本が大きく開くPUR製本を用い、誌面のスペースも有効に活用して、見やすさの向上につなげています。

おもしろい！ ～生徒の興味・関心を引き出せます 世界史への共感を呼び起こす！ 総勢120

人物の生き方が 伝わってくる！

解説文では生き方や考え方など人物の内面にも光を当てており、世界史を身近な存在として捉えられます。



教科書
p.68-69

ヨーロッパ文化と接した
康熙帝 1654～1722



「皇帝は数学の研究に無上の快楽を感じていらしゃいました。その結果、皇帝は私どもと一緒に毎日欠かさず2～3時間過ごされました。…」(イエズス会士ブーヴェ『康熙帝伝』後藤末男訳) この本は、康熙帝の顔にはあばたがあるなど中国側の史料には見えない情報が多い。とりわけ語学や音楽への興味、とどまるところを知らない好奇心と高い知的能力など、人物像がよく描かれている。写真左はヨーロッパで出版された本の表紙に描かれた康熙帝。右は読書をする康熙帝。

←p.45

↑p.69

好奇心旺盛な康熙帝や正義心あふれるラス=カサスといった人間味ある姿を垣間見れます。

先住民の救済を訴えた修道士
ラス=カサス 1484～1566



植民地での先住民酷使を目撃して衝撃を受け、帰国後スペイン国王に先住民の救済を訴えた。さらにベネズエラで先住民を酷使しない植民地の建設に着手したが、失敗してしまう。のちには南北アメリカ大陸におけるスペイン人の悪行を記した報告書を国王に提出し、先住民の奴隷化を禁じた新法の制定に成功した。先住民のかわりに黒人を奴隷として使うことは当初やむをえないと考えていたが、のちにはその誤りに気づき、黒人の奴隷制度(→p.91)も批判するようになった。

↑p.79

ローマの過渡期を導いた二人の英傑
カエサル(左) 前100?～前44
オクタウィアヌ(右) 前63～後14

新規



カエサルは戦争に強い将軍というだけでなく、たくみに支持者を集め、そのカリスマ性で共和政ローマをまとめあげた。しかし、実質的な権力を自らに集中させたため、一部の敵対者によって殺害された。オクタウィアヌは、カエサルの教訓から権限をすべて市民に返還する形をとった。やがて元老院から“アウグストゥス(尊敬すべき人)”の称号を受けた。その実態は帝政そのものであったが、情け深い人ながらや伝統を重んじた政策などにより熱狂的な支持を得た。

人物同士の関係が 見えてくる！

二人の人物を同時に紹介。立場や考え方、生き方などに着目した彼らの関係性から、世界史を捉えられます。

カエサルとオクタウィアヌの支配に対する考え方や行動の違いを通して、ローマの帝政成立を捉えられます。

始皇帝と韓非の立場の違いや考え方の相似を通して、秦の中国統一を捉えられます。

法治主義の実践者
始皇帝 前259～前210
韓非 ?～前233?

新規



韓非は秦の隣国の韓の王族。自分の考えを話すのは苦手だったが、文章はたくみで、法家を代表する。しばしば韓王に対して秦の脅威を訴えた。その著作は

秦に伝わり、皮肉にも法治主義を進める秦王(のちの始皇帝)に賞賛された。“どんな盾も通す矛”と“どんな矛も防ぐ盾”を売っていた男が、客にその矛でその盾を突いたらどうなるのかと問われたという“矛盾”のエピソードは、その著作に由来する。

↑p.13

人に充実した「人物」コラム

新規

↓ p.105

1789年人権宣言の限界を見抜いていた

グージュ 1748～93

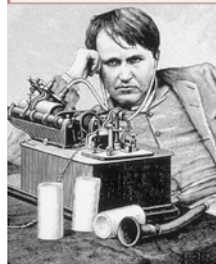


南仏モンターバン生まれ。実の父親は貴族であったという説もある。自身の見聞から、非嫡出子、黒人奴隷、家父長制度の下で抑圧されていた人々の権利を多数の戯曲、小説、パンフレットを通して世に訴えた。また、1789年の「人権宣言」が有していた「男性および男性市民の権利宣言」としての限界を、1791年に発表した「女性および女性市民の権利宣言」によって明らかにした。1793年、マリ=アントワネットの2週間後に処刑された。

いた人々の権利を多数の戯曲、小説、パンフレットを通して世に訴えた。また、1789年の「人権宣言」が有していた「男性および男性市民の権利宣言」としての限界を、1791年に発表した「女性および女性市民の権利宣言」によって明らかにした。1793年、マリ=アントワネットの2週間後に処刑された。

電灯など数々の発明を行った「発明王」

エディソン 1847～1931

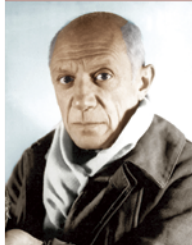


貧しい商人の家に生まれ、小学校には数か月しか通わず母から教育を受けた。少年時代から電気や化学の実験に熱中し、

のちの数々の発明の基礎を身につけた。やがて連日わずかな睡眠で多数の大発明を行って「発明王」とよばれるようになり、すぐれたスタッフを集めたエディソン研究所もつくられた。科学界の新情報を集めてその応用に取り組み、発明そのものを企業にした最初の人でもあった。

ファシズムへの嫌悪を絵にした画家

ピカソ 1881～1973



フランコ将軍を支援するドイツの空軍は、1937年4月26日、北部バスク地方の小さな町ゲルニカを無差別に爆撃し、廃墟にした。バスコの血をひくピカソはパリでこれを知ると、近代兵器によるおぞましい戦争に怒り、この惨状をカンパスに書いた。『ゲルニカ』はピカソの作品の中では珍しく政治色が強い作品であった。

↑ p.179

新規

平成25年度版から20か所新設！

為政者のみならず文化形成に寄与した人物や、歴史上活躍した女性にも光を当て、さらに充実させています。

新規

← p.126

人物コラム 一覧 計107か所／120人 (赤字は女性、■は新規)

p.13	始皇帝と韓非	p.101	マリ=アントワネット	p.156	ヴィルヘルム 2世
p.14	王昭君	p.101	ロベスピエール	p.160	ニコライ 2世とその家族
p.17	玄奘	p.102	ベートーヴェン	p.161	レーニンとスターリン
p.18	則天武后	p.105	ルソー	p.162	ウィルソン
p.19	玄宗と楊貴妃	p.105	グージュ	p.164	ローザ=ルクセンブルク
p.21	李白と杜甫	p.106	トゥッサン=ルーヴェルテュール	p.166	ヘンリー=フォード
p.23	チンギス=ハン	p.107	シモン=ボリバル	p.167	チャップリン
p.34	ハンムラビ	p.111	ワット	p.169	ココ=シャネル
p.38	ハールーン=アッラシード	p.113	マルクス	p.170	ムスタファ=ケマル
p.39	サラディン(サラフ=アッディーン)	p.117	ショパン	p.171	ガンディー
p.44	アレクサンドロス	p.118	ヴィクトリア女王	p.172	魯迅
p.45	カエサルとオクタウィアヌス	p.120	ナポレオン 3世	p.173	宋家の三姉妹
p.49	ユスティニアヌス帝	p.121	マツシーニとガリバルディ	p.176	フランクリン=ローズヴェルト
p.50	カール大帝	p.121	ビスマルク	p.178	ヒトラー
p.51	インノケンティウス 3世	p.122	アレクサンドル 2世	p.179	ピカソ
p.53	ジャンヌ=ダルク	p.122	ナイチンゲール	p.180	溥儀(宣統帝)
p.58	イブン=バットゥータ	p.125	リンカン	p.181	張学良
p.61	ヴァスコ=ダ=ガマ	p.126	エディソン	p.182	ド=ゴール
p.61	鄭和	p.127	ダーウィン	p.184	ティーター
p.62	スレイマン 1世	p.129	グリム兄弟	p.190	チャーチル
p.64	アウラングゼーブ	p.130	ムハンマド=アリー	p.191	アインシュタイン
p.66	朱元璋(洪武帝)	p.131	ミドハト=パシャ	p.192	トルーマン
p.67	世宗	p.132	アフガーニー	p.194	マッカーサー
p.68	鄭成功	p.133	オラービー	p.196	周恩来とネルー
p.69	康熙帝	p.134	ラクシュミー=バイー	p.196	ホー=チ=ミン
p.71	マテオ=リッチ	p.137	チュラロンコーン(ラーマ 5世)	p.198	ナセル
p.74	コペルニクスとガリレオ=ガリレイ	p.139	洪秀全	p.199	ホメイニ
p.75	ルター	p.140	グラバー	p.200	ロックフェラー
p.78	マゼラン(マガリャンイス)	p.142	曾国藩と李鴻章	p.202	フィデル=カストロとゲバラ
p.79	ラス=カサス	p.143	大院君と明成皇后(閔妃)	p.203	ケネディ
p.82	フェリペ 2世	p.144	西太后	p.207	鄧小平
p.83	グロティウス	p.145	安重根	p.208	ゴルバチョフ
p.86	マリア=テレジア	p.146	孫文	p.210	マンデラ
p.87	ジョン=ロック	p.147	袁世凱	p.212	バラク=オバマ
p.89	ボンパドゥール夫人	p.151	ロイター	p.215	金大中
p.99	ワシントン	p.153	セシル=ローズ		

おもしろい! ~生徒の興味・関心を引き出せます 新鮮な驚きを引き出す! 音楽や動物にも

特設ページ「物を通して見る世界史」

世界規模で時代を大きく動かした六つの「物」の歴史を見開きで取り上げています。身近な物に秘められた歴史を知ること、世界史への興味と関心を引き出せます。

物を通して見る世界史

- 絹—→2~8世紀 東方からもたらされる貴重品……………16
- 香辛料—→12~15世紀 大航海時代をもたらした原動力……………54
- じゃがいも—→16世紀 ヨーロッパの食卓を変えた食材……………80
- 綿—→17~19世紀 庶民の服装を変えた流行の品……………108
- 衣服—→20世紀① 女性の社会進出とファッションの変化……………168
- 石油—→20世紀② なげれば困る、万能な液体……………200

→p.16-17

物を通して見る世界史

—絹—→2~8世紀 東方からもたらされる貴重品

上段

~時代をイメージできる資料~

普段の生活でも目にする絹織物が、古代では東方の中国でしか生産できない貴重品だったことをつかめます。



①②絹織物の作業過程 ①は撚繰(推いて仕上げる)、②は熨帛(アイロンがけ)の様子を描いている。これらは女性の仕事だった。(張彦作『鳥線図』アメリカボストン美術館蔵 8世紀)



●絹に関する各国の認識

■ローマの博物学者プリニウス
セレス人の国(ここでは絹を産させたものを生ずるの有名な)の業に生えているのを見つかる。にひたして糸とし、織って絹と西の国ローマに送られ、この絹は

■ギリシアの旅行家パウサニヤ
セレス人が織物をつくる織機は、植物からではなく虫から生

下段

~歴史への影響を解説~

絹織物が西方のローマ帝国などで人気を博し、その人々の消費意欲がユーラシアをまたぐ大交易を生み出したことが理解できます。



①②おもな交易路 “海の道”の途中のインドでは、もともと中国のこを乗(→p.13)の国名がなまった“シナイ”・“ティナイ”などとよんでいたため、ローマ帝国では海からの絹の産地を“シナイ”・“ティナイ”などとよび、これが英語のチャイナの語源となった。



③後漢時代の画像磚に描かれた機織り 磚は当時の建築資材。しばしば当時の生活が表されているため、貴重な資料となっている。出土地の成都は、三国時

代以降、蜀錦とよばれる絹織物の名産地として有名となった。この足踏み機織り機は、当時世界で最も先進的なものだった。(四川省成都出土)



④説話を伝える板絵 ホーランド

●絹を運んだ人々●

光沢があるだけでなく、染色にも適した絹は、中国国内では衣類だけでなく、書籍を書写したり(帛書)、絵(帛画)や刺繍などの美術面にも用いられていた。軽くて高価な絹は大量の需要があり、隊商貿易にとって最適の商品だった。それはすぐ騎馬遊牧民に目をつけられ、遊牧民は中国との国境の交易場で馬と交換して絹を手に入れ、草原の道によってこれを西方に運んだ。このように中国と遊牧民が国境で平和的に行った交易を絹馬交易という。

●甘英の断念●

1世紀の末、オアシス沿い(“絹の道”)の都市を統治して

いた後漢の將軍班超は、部下の甘英(ローマ帝国)へ派遣した。甘英は安息(パルティア)から地中海東岸のシリア地方にいたり、ここからさらに大秦に行こうとした。しかしパルティアの船員から、ローマまでの航海は順風でも3か月、遅風にあうと2年かかり、3年分の食料を積まなければならない、ホームシックで死ぬ者さえあえると聞き、航海を断念した。当時、ローマ帝国は後漢との通交を望んでいたが、中国の絹を独占したいパルティアは、これを妨害したのであった。絹にかかる関税は大切な収入源であり、後漢とローマの直接取引はなんとしても阻止しなければならなかったのである。

●絹の大消費地ローマ●

地中海にはもともと“ヤマ”の織物があった。しかし、そこから入ってくるようになっていった。ただし、絹がなかった。中国産の絹はいつか地中海の気候に合うように漸くなると中国産の絹を取り扱って取り引きされた。4世紀には教会でも絹の法衣を着用する行記に採録している伝説は、

ジャンルを広げた多様な「物」特集

コラム「物にも歴史あり」

世界各地の歴史の形成に、独自に影響を与えた「物」を、コラムで取り上げています。生徒にはなじみの薄い地域の歴史への理解を、親しみやすい身近な視点から深められます。

⑥まゆから生糸を繰り探るようす(ホータン)

繭殻を防ぐため乾燥したまゆの中から品質の良いものを選び、糸が解きほぐしやすいように潮で煮る。小枝のようなものでまゆの表面をこすり、糸口を引き出す。これを糸繰り機に運び、目的の太さになるように何本かを合わせ、一本の糸による。

シルク=ロードを旅した **玄奘** 602? ~664

629年、長安を出発した玄奘は、陸路で西行し、中央アジアを経て、3年かけてインドに入った。インド各地を歴訪し、645年に帰国した。玄奘の旅行記『大唐西域記』には、オアシス都市ホータンに中国の養蚕が伝わったいきさつを述べた伝説がみえる。

●玄奘が伝える蚕の伝説

昔、ホータンには桑の木もなく、蚕もいなかった。中国にあると聞いた王は、使者に命じて蚕を求めさせたが、中国ではこれを国外に持ち出すことを厳しく禁じていた。一計を案じた王は、中国の王女を后として迎えることを願い出した。…王は、后となる中国の王女に、「わが国には元来絹糸や桑、蚕の種がないので、持ってきて自ら衣服をつくるように」と伝えた。王女はホータンに嫁入りするとき、帽子の中に桑と蚕の種を隠してもち込んだ。…王妃は、ある場所に桑と蚕の種をどめておき、春になると桑を植え、蚕月になると桑の葉をとり養蚕を行った。…王妃はここに蚕のために伽藍を建てた。…ホータンでは、決して蚕を殺さないという習慣がある。 (『大唐西域記』より)

重要文化財「玄奘三蔵像」東京国立博物館蔵

の近くから玄奘が伝えた説話と一致する内容の板絵が見つかっている。

⑤(1世紀)

する国)は、森からやわらかなふさふさある。この青白いふさがこのように木と、セレス人はこれをとってきて、水する。世界の東の蓬セレスの地から種は真婦人のよそおう美しい衣服となる。

⑤(2世紀ごろ)

は植物から生ずるのではない。まったるるのである。

動物

新規

↓ p.123

物にも歴史あり ラッコと毛皮

シベリアや北太平洋沿岸部への進出の原動力となったのは、豊富に生息していた動物たちの毛皮であった。ラッコの毛皮は、ヨーロッパや中国で大変な高値で売れた。ロシアと清との交易地キャフタでの交易が停止されていた18世紀末には、アメリカがアラスカから太平洋を通り、広州へ品物を送って、中国市場でのラッコ毛皮の取引を独占していた。



→ ⑤ラッコ

音楽

新規

↓ p.107

物にも歴史あり レゲエ音楽

レゲエは黒人たちの伝統的ダンス音楽をもとに彼らの社会的抵抗の精神を含めた音楽として1960年代に成立した。イギリス人の父と黒人の母の間に生まれたボブ=マーリーの曲『Get up, Stand up』はその代表作であり、ジャマイカが独立した1962年ごろから世界に広まった。



↑ ⑤レゲエ歌手ボブ=マーリー

平成25年度版から6か所新設

コラム **物にも歴史あり** 一覧 計17か所 (■は新規)

p.15	汗血馬	p.113	時計と遅刻の誕生
p.30	占城米	p.119	恐竜の化石
p.46	アキレス腱と神話	p.123	ラッコと毛皮
p.53	ヨーロッパを襲ったペスト	p.133	じゅうたん
p.59	陶磁器	p.136	天然ゴム
p.65	コーヒー	p.139	アヘン
p.83	チューリップ	p.169	ジーンズ
p.91	たら	p.179	アウトバーンと国民車
p.107	レゲエ音楽		

資料集を思わせる豊富さ・大きさ・鮮明さの特設ページ「クローズアップ生活・文化！」

写真・絵画によるビジュアルな誌面で、文章だけでは伝わらない各時代と地域の「生活・文化」をイメージできます。

クローズアップ生活・文化！

交流から生まれる唐の文化…………… 20
 信仰にもつづくイスラム文化…………… 40
 豊かな生活と究極の理想を求めたギリシア・ローマの文化…………… 46
 活気ある都市が生んだ明・清の文化…………… 70
 花開くルネサンスの文化…………… 76
 貴族が支えた17～18世紀のヨーロッパ文化…………… 88
 市民社会から生まれた19世紀のヨーロッパ文化…………… 128
 1920年代黄金期のアメリカ文化…………… 166

新設！

クローズアップ生活・文化！

上段

～人々の日常を伝える資料～

当時の絵画や広告から、映画やダンス、ショッピングなどの新たな余暇が誕生し、それらを満喫する当時の人々の様子が見えてきます。

1920年代黄金期のアメリカ文化

アメリカでは、大戦前から政府の機能が強化され、独占資本の横暴を抑えながら所得格差や労働条件の改善が行われた結果、白人のホワイトカラー層を中心に購買力のある人々が増大していた。そこへ大戦後の経済的繁栄が加わって、大量消費と大衆文化のさかんな時代が始まった。



→①「ダンスホールのある」の活動

ジャズとダンス

もともと黒人の間に生まれたジャズは、ニューオーリンズから広まって1920年代に大流行した。アメリカの好景気ももたらした時代を「ジャズ=エイジ」よぶこともある。

フラッパーの出現

従来の考え方にとらわれず、飲酒や喫煙に積極的で、ひらとした身ごなしから、「フラッパー」とよばれる新しいタイプの若い女性たちが登場

映画の普及

映画館は「5セントの劇場」よばれて普及し、ハリウッド映画制作の聖地となった。

下段

～生活・文化を紐解く資料～

アメリカ的生活様式が、どのように誕生し、またそうした文化の繁栄の影として、どのような諸問題が生じたのかが見えてきます。

1 アメリカ的生活様式



④1920年代のアメリカ 1920年代には早くも5人に1人が自動車をもつようになった。高速道路が整備され、自動車を購入した人々は、郊外の1戸建ての住宅地に住み、ドライブが余暇の娯楽になった。1928年にはフーヴァーが大統領選で「ガレージに2台の車を」と公約して当選したものの、このような20年代の繁栄を謳歌できたのは、おもにアングロサクソン系でプロテスタントの白人中産階級の人々であった。

④ジャズの登場

自動車の大量生産を可能にした自動車王
 ヘンリー=フォード 1863～1947



16歳で機械工となり、エディソン電気会社の主任技師を務めたあと、1903年フォードモーター社を設立。T型フォード生産には、ベルトコンベアに乗せた流れ作業方式を採用し、はじめは1台製造するのに14時間かかった時間を、25年には10分程度に短縮し、大量生産を実現した。自動車の普及に貢献し、成功した企業家でもあったため「自動車王」とよばれる。しかし、反ユダヤのキャンペーンを張り、ヒトラーの敬愛を受けた一面もある。

⑦ウォルト=ディズニー(1901～66年)

ディズニーはアニメ映画の技術を次々に開発して、「白雪姫」・「パピンビ」などを制作した。また、ディズニーランドをロサンゼルスに建設するなど、「アメリカ的天才」の代表者であった。



2 新たな問題

社会に問題を訴える「喜劇王」
 チャップリン 1889～1975

ロンドンに生まれ、奇麗な芸人として舞臺に活躍した。アメリカに渡ってコメディに入り、山高帽にドット・テックという独特のスタイルで、「独裁者」ではヒトラーに似せた。戦後、反共主義が叫ばれた。

未来へ活かす歴史

ラジオや映画などによって、瞬時に情報をもたらした。しかし、一方で自分を見失った。社会的に自分の居場所を失った。社会の大きな課題となった。

⑧ラジオのある生活
 ビッグバンドでラジオと、またたく間に広がった。約500の放送局が1の家庭(1000万世帯)

絵画が満載の「生活・文化」特集

生徒の関心を高める「食」の視点


生徒の日常感覚に最も近い視点である「食」をテーマとしたアプローチで、生徒の関心を高められます。

時代の特色が一目でわかる

統一された紙面

レイアウトを統一しているため、ページ全体を比較すれば、各時代の特色をはじめ、時代の変化まで捉えられます。

→ 掃除機の広告 1929年には全米の7割の家庭で電気がつくようになり、掃除機や冷蔵庫、洗濯機、アイロンなどの家電製品も普及した。こうして豊かな物質的生活とアメリカ憲法(民主主義)の理想、フロンティア精神、個人主義などが結びついた。アメリカ的生活様式が確立した。



当時の食卓

電気が変えたアメリカの食事

電気冷蔵庫やシステムキッチンによって、料理の簡易化が進んだ。とくに冷蔵庫の登場で冷たいゼリーなどもでき、ホームパーティがひんぱんに行われるようになった。

→ 電気冷蔵庫の普及




→ スティック型口紅の登場 スティック型口紅が爆発的に広がり、パーマメントも普及した。これによってどの家庭にも化粧品一式がそろえられるようになった。



→ 密造酒を下水道に捨てる警官たち 1920年に施行された禁酒法によって酒の製造・販売は禁止された。しかし実際にはふつうの人々もひそかに酒を飲んだ。酒の密造・密売がさかんになると、やみで酒を取り引きするギャングが横行し抗争となった。論議的となった禁酒法は、1933年に廃止された。



→ 密造酒を下水道に捨てる警官たち 1920年に施行された禁酒法によって酒の製造・販売は禁止された。しかし実際にはふつうの人々もひそかに酒を飲んだ。酒の密造・密売がさかんになると、やみで酒を取り引きするギャングが横行し抗争となった。論議的となった禁酒法は、1933年に廃止された。



大衆化で問われるアイデンティティ

マス・メディア(1920年代にはテレビはまだ実用化されず)さまざまな情報や娯楽を伝え、新しい生活様式や考え方を広げ、マス・コミなどによる情報の洪水は、それにまみれる人々の間に危険性を伴っている。大衆化と都市化によって村や町という人間関係が消えるなかで、孤立することなく、個性を見定め、生きがいある人生を見つけれられるかは、大衆化によって問われる。

→ クー・クラックス・クラン(KKK)の集会 1920年代には白人以外の黒人やアジア人を排除しようとする組織が活発化した。背景には、異人種の移民を制限する移民法の成立をはじめとする黒人や移民に対する差別・敵意が強まったことがあった。ほかにも社会主義者の弾圧が行われるなど、社会の保守化が進行した。




貴族が中心の時代

クロースアップ 生活・文化!

教科書 p.88-89



市民が中心の時代

クロースアップ 生活・文化!

教科書 p.128-129



大衆が中心の時代

わかりやすい！ ～初学者でも2単位でも流れがよく捉え 時代の大枠への理解が進む！ テーマで近

複雑な近現代史の流れを体系化できる「明解！近現代史」

近現代史を三つのテーマ「①世界の主導権争い」「②革命の広がり」「③戦争の変化」で整理した特設ページを新設し、複雑な近現代史の流れを体系的に捉えられるようにしています。

明解！ 近現代史

②革命の広がり

新設！

自由と平等を求める動きから近
18世紀に生まれた自由と平等という思想
ざして革命運動が、外国の勢力の打倒をめざ

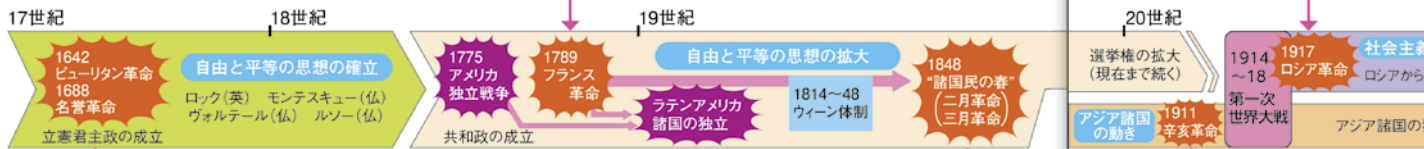
2 18世紀後半
自由と平等を広めた
フランス革命



→ ③ 球戯場の誓い
ここに集まった国民議会のメンバーが、自由と平等を掲げたフランス人権宣言をつくり上げた。

5 20世紀前半
社会主義国家の
登場
ロシア革命

→ ⑥ ソヴェト(評議会)で演説するレーニン
政府が計画的に経済を管理し、平等を実現していくという社会主義の考えは、多くの人を引きつけた。



1 17世紀後半
議会が王権に勝利した名誉革命



→ ④ 名誉革命後に即位したメアリ2世とウィリアム3世
二人は議会が提出した王権を制限する"権利の宣言"を認め、これ以後イギリスは議会中心の政治に移行した。

3 19世紀半ば
ヨーロッパに広がる
革命と独立の波



→ ⑤ 三月革命での戦い(ベルリン)
自由と平等の思想は、憲法や議会の制定を求める運動に発展し、1848年にはヨーロッパ各地で革命や争乱が起こった。

4 20世紀初め
辛亥革命とアジア初の共和国



→ ⑦ 中華民国建国
清朝軍の一部による反乱が始まり、孫文を臨時大總統として1912年に中

● 自由と平等という思想の登場 → ①

17世紀前半のイギリスでは、国王と議会の対立が深まり、**名誉革命**を経て世界に先がけ憲法と議会による立憲君主政が始まった。この影響により18世紀になると、ヨーロッパ社会に残る非合理を批判する動きが生まれ、すべての人間は生まれながらに自由・平等などの権利(基本的人権)をもつという思想が登場した。

● アメリカの独立とフランスの革命およびその影響 → ②・③

18世紀後半になると、イギリスの植民地であったアメリカが**独立戦争**に勝利し、フランスでも旧制度のさまざまな矛盾に対す

る不満が爆発して**フランス革命**が起こった。ナポレオンの大陸支配中に自由・平等の思想がヨーロッパ中に伝わり、南アメリカ大陸の植民地でも独立運動が展開された。ウィーン体制により一度は革命の波はおさまったが、1848年には再び自由と平等の実現を求める声が高まり、国民国家を建設する動きが広がった。日本へは明治維新のころに伝えられ自由民権運動に影響を与えた。

● 専制君主政国家の崩壊と社会主義革命 → ④・⑤

20世紀初めになると、各地で専制君主政は崩壊した。ドイツやロシアでは第一次世界大戦の停止を求める人々が革命を起こ

し、共和政が誕生した。とくにロシアで世界初の社会主義国家、ソヴェト連も、清で革命が起こってアジア初の共和国もトルコ共和国へと移行した。植民地

● 一党独裁を打倒した東欧革命 → ⑦

ソ連の成立後、社会主義国家は世界の支配下でしだいに自由は制限されてい、改革の動きが活発となり、89年に不満が

られます

現代史を体系化できる特設ページ【新企画】

テーマ② 革命の広がり


現在、世界各地に浸透している自由と平等の思想をテーマに、これらの思想が、様々な革命運動や独立運動を経てどのように獲得されていったのかを端的に捉えられます。

↓ p.114-115

近現代史をみていこう！

現在は世界各地に浸透している。しかし、それが実現していないときには、国内の政権の打倒をめとして独立運動が起こった。時代や地域による運動の違いに注目しながらみていこう。

7 20世紀末 一党独裁を打倒した東欧革命



→ **ベルリンの壁の崩壊** 1989年にポーランドで社会主義政権が倒れると、その動きは次々に東欧諸国に広がり、同じ年にドイツではベルリンの壁が崩壊した。



6 20世紀後半 イスラム革命の登場



→ **イラン=イスラム革命** イスラム復興を掲げた革命は、欧米諸国に衝撃を与えた。これ以後、欧米の価値観を批判し、アメリカなどと対立する勢力も増加していった。

は、このロシア革命により、ソ連が成立した。アジアで共和政が成立し、オスマン帝制は自由・平等を求める独立運動が展開した。

地に成立したが、共産党が成立した。1980年代になると、東欧革命が起った。

た。各地の共産党政権が打倒され、91年にはソ連も解体した。

● **アジア・アフリカ諸国の新たな革命** → **6**

第二次世界大戦後になると、アジア諸国は欧米諸国からの独立に成功し、アフリカ諸国も1960年を中心に独立を果たした。しかし、これらの国々には、独立を果たしたのちも専制君主政や一部の独裁体制が続く国があった。その打倒をめざした革命が各地で起こり、イランではイスラムの復興をかかげて**イラン=イスラム革命**が起こった。2011年にはアラブ諸国の独裁政権が次々に打倒される革命(“**アラブの春**”)も起っている。

「明解！近現代史」の活用場面

- **近現代史の学習の導入時**
近現代史の大きな流れをイメージでき、学習内容を見通せます。
- **近現代史の学習中**
学習単元が、近現代史全体のどこに位置しているのかを確認できます。
- **近現代史の学習の終了後**
学習内容を振り返り、知識の確認と整理を行えます。

近現代史の大きな流れと転換点をビジュアルに整理した流れ図

左右を貫く流れ図を軸に、関連資料を写真・絵画で示しています。視覚的にわかりやすい表現で整理しており、近現代史の流れを捉える重要なポイントにすぐに気づけます。

現代につながる視点で近現代史の出来事を整理した解説

現代へとつながる歴史の流れと、時代の大きな転換点やまとまりを意識して解説しており、現代との関連から近現代史の重要な出来事を整理して捉えられます。

わかりやすい！ ～初学者でも2単位でも流れがよく捉え 時代の大枠への理解が進む！ テーマで近

明解！ 近現代史

①世界の主導権争い

新設！

世界の主導権争いから近現代史をみていこ
近代になると、他の国々に比べて圧倒的に強い経済力をもっ
導権をもつようになったのか、なぜそれらの国は主導権をも

1 15世紀末 スペインの台頭



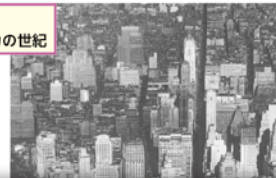
↑15世紀末の国王・女王に謁見するコロンブス。コロンブスがアメリカ大陸へ到達したことは、スペインだけでなく、ヨーロッパが力を強めていくきっかけとなった。

3 19世紀 “世界の工場”イギリス



↑3 鉄道の開通式。世界初の鉄道は1825年、いち早く産業革命から始まった。絵は1830年、リヴァプールでの開通式

5 20世紀 アメリカの世紀



↑6 高層ビルが建



2 17世紀 覇権国家 オランダ

↑2 オランダ東インド会社の船。オランダは造船業を発展させて海運国となり、アムステルダムは世界の商業および金融における中心地となった。



4 20世紀初め ドイツの挑戦



↑4 戦艦の上で演説をするヴィルヘルム2世。ヴィルヘルム2世は、急速な経済成長を背景に建艦競争を進め、対立を深めていった。

明解！ 近現代史

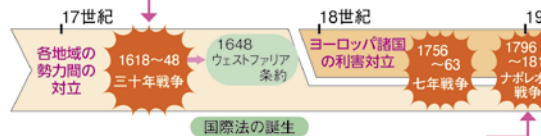
③戦争

1 17世紀前半 国際法の誕生



↑1 三十年戦争。宗教的対立から起こった三十年戦争は、各勢力間の対立がからんでヨーロッパ全土へ広がった。そのため、ウエストファリア条約の調印には、ヨーロッパの多くの国々が参加した。

3 20世紀 総力戦 第一次



2 18世紀初め ヨーロッパ諸国 による利害対立

↑2 ナポレオン戦争。徴兵制を導入し、多くの兵を集めたフランスは、ヨーロッパ各地で戦いを繰り返した。このうち、戦時中は男性国民の多くが兵士となることで定着した。



● 大航海時代の始まりと覇権国家の登場 →1・2

15世紀後半、大航海時代の幕開けにより、南北アメリカ大陸への進出が始まり、進出の中心となったスペインやポルトガルは銀などの富を得て繁栄した。とくにスペインは一時的にポルトガルも併合し、“太陽が沈まぬ帝国”とよばれるほどになった。

17世紀になると、スペインから独立したオランダが、バルト海や大西洋交易の中継地として栄え、ほかのヨーロッパ諸国をこえる経済力をつけて最初の覇権国家となった。またアジアでの交易にも参加し、“領国”下の日本と交易を行うことも成功した。

● “世界の工場”とよばれたイギリス →3

18世紀になると、イギリス・フランスが北アメリカへ進出するようになった。その進出競争に勝利したイギリスであった。各地に植民地をもつようになった産業革命を経て、“世界の工場”とよばれるほどの工業国となり、経済的にも他国を寄せつけなくなった。

● イギリスへの挑戦と台頭するアメリカ →2・5

19世紀後半になると、ドイツやアメリカが産業革命で力をつけるようになり、世界の市場をめぐる各国間の競争が激化し、対立を深めていった。

● 国家間のルールを定めた国際法の誕生 →1

長期化した三十年戦争の反省の下、1648年ウエストファリア条約が結ばれ、ここに国家間のルールである国際法が史上初めて誕生した。このうち、ヨーロッパでは国家という枠組みがより強調されていき、戦争は国家間の利害対立が原因となっていった。

● ヨーロッパ諸国による戦争拡大と同盟関係 →2

18世紀になると、ヨーロッパ諸国の世界進出に伴って、その対立も世界各地に広がり、世界中の国々がその植民地獲得競争へ巻き込まれていった。一方、ナポレオン戦争後に成立したウィー

● 連合軍の

盟を結

● 第一

各勢力

なった。

より、多

でなく、

争被害の

ての国際

↑ p.94-95

テーマ① 世界の主導権争い

世界の主導権をめぐる各国の動きをテーマに、時代とともに国際情勢がどのように動いていったのかを端的に捉えられます。

られます

現代史を体系化できる特設ページ【新企画】

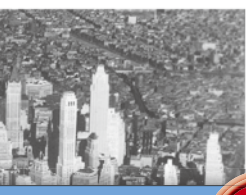
テーマ③ 戦争の変化

近現代の戦争をテーマに、その変化とともに平和を築く努力がどのように行われてきたのかを端的に捉えられます。



↓p.186-187

う！
た国家、覇権国家が登場し、世界の主導権をにぎるようになる。どのような国が主
ことができたのか、に注目してみよう。



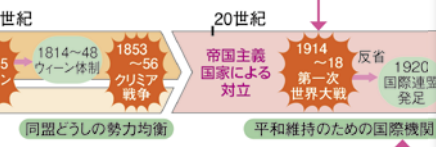
8 21世紀初め 力をつける中国

⑥上海万博開幕式(2010年) 社会主義体制を保ちつつ、市場経済を導入した中国は、急速な発展をとげ、2010年代には日本をしのぐ経済力を手にするようになった。

戦争の変化



⑤ 20世紀前半
となった
世界大戦
④第一次世界大戦に登場した新兵器 飛行船や飛行機、戦車、毒ガスなど、それまでにはなかった兵器がこの戦争に投入され、大量の戦死者が出ることとなった。



4 20世紀前半 平和維持をめざした 国際連盟

④国際連盟の
原加盟
国は42カ国。ア
メリカ・ドイツ
は参加して
いないなどの課
題も抱えていた。

このころから外交による調整が行われ、ヨーロッパ各国が同
各勢力の均衡により戦争が抑制される状況も生まれた。
⑤第一次世界大戦と国際連盟の発足 一④・④
この戦争では数多くの新兵器が登場し、これらの兵器に
多くの兵士が命を失った。また戦争は戦場で戦う兵士だけ
すべての国民が戦争に協力する総力戦へと変化した。戦
拡大を受け、戦後には国際平和の維持を目的とする初め
機関、国際連盟が発足し、不戦条約なども結ばれた。

戦争の変化と平和への努力から近現代史をみていこう！
人類はその歴史を通じて多くの戦争を経験してきた。その反省から平和を築くための努力も続けられている。戦争はどのように変化してきたのかを知り、これから私たちは平和を築くためにどのようなことができるのか、を考えていこう。

5 20世紀半ば 民間人が犠牲となった 第二次世界大戦



⑥広島に落とされた原子爆弾 アメリカは、戦争の早期終結とともにソ連に対して軍事的な優位を明確に示すために、日本へ原子爆弾を投下した。世界で原子爆弾による攻撃を経験したのは、日本だけである。

7 20世紀後半 民族紛争の噴出



⑦ユーゴスラヴィア内戦で廃墟と化した街(1993年、ホスニア・ヘルツェゴヴィナ) 冷戦時には社会主義体制で抑え込まれていた各地の民族対立は、その崩壊とともに各地で爆発した。とくに複雑な民族構成であったユーゴスラヴィアではそれが激化した。



6 20世紀後半 冷戦と 核兵器開発競争

⑥中距離核戦力
(INF) 全廃条約調印
(1987年) 米ソの二
か国は全人類を滅ぼす
のに必要な量を上ま
わる核兵器を保有して
いたが、この条約で初
めて核の削減が実現し

●第二次世界大戦と国際連盟の発足 一⑤
平和への努力が実らず、第二次世界大戦が起こると、総力戦を支える民間人に向けて爆撃などが行われた。また原子爆弾が開発され、最後まで抵抗を続けた日本が犠牲となった。戦後、国際連盟にかわる新たな組織として、国際連盟が発足した。
●冷戦とその後民族紛争 一⑥・⑦
二つの大戦後、アメリカ・ソ連の両陣営による冷戦が激しさを増したが、たがいに大量の核兵器を保有していたため、大戦争は起きなかった。しかし両陣営の威信をかけた代理戦争が世界各地

8 21世紀初め テロとの戦い

⑧9.11事件で崩
れ去った世界貿易セ
ンタービル この事
件以降、欧米諸国
への見方が変化した
が、多くのムスリム
は平和を望んでいる。

で行われた。やがて冷戦が終結し、社会主義陣営の政権が崩壊すると、抑え込まれていた民族間の対立(民族紛争)が各地で一気に噴き出した。それらの紛争に対し、常任理事国の利害関係もあって国連の動きはまともならず、各国は多国軍を結成して対応した。
●21世紀に広がる“新しい戦争” 一⑧
21世紀に入ると、欧米諸国を敵視するイスラーム過激派の活動が活発化し、各地で無差別テロを行うようになった。2014年には過激派組織ISIL(“イスラーム国”)のような勢力も現れた。こうした勢力に対する取り組みは現在も大きな課題となっている。

わかりやすい！ ～初学者でも2単位でも流れがよく捉え 時代の大枠への理解が進む！ 時代の大枠

各時代の大枠を捉えて 流れを見通せる五つの「章扉」

各章冒頭の章扉では、視覚的にわかりやすい資料を通して、これから学習する時代の全体像を捉え、歴史の大きな流れを見通しやすくしています。

全時代
網羅！

- 1部1章…
- 1部2章…
- 1部3章…
- 2部1章…
- 2部2章…

↓p.60-61

2章 一体化に向かう世界

1部2章の流れ



1部2章の世界

16世紀以降、東アジアでは明・清朝が、西アジア・北アフリカ・南アジアではオスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国の3国が、いずれも繁栄をきわめていた。

そうしたなか、世界が一体化に向かう最大のできごとが起こる。大航海時代とよばれるヨーロッパ勢力の対外進出である。初めはそれまでのムスリム商人・中国商人などによって行われた交易だったが、ヨーロッパ各国に強力な君主政が成立すると、アジアの富を求めて新たな航路の開拓が始まった。国王を中心に中央集権制をとりイスラム勢力に対抗したポルトガル・スペインがその口火を切り、その後、スペインから独立したオランダが主導権をにぎり、続いてイギリス・フランスが進出した。

15～16世紀の世界



◆結びつく世界

1488年のポルトガル人バルトロメウ・ディアスの喜望峯確認、92年のスペインの支援を受けたコロンブスの西インド諸島到達を契機に、豊かなアジアの物産を求めて、ポルトガルは東まわり、スペインは西まわりでインドをめざした。大航海時代(→p.78)の出現は、ヨーロッパ人の世界地理の知識を飛躍的に増大させ、それらは地図に反映された。

②プトレマイオスの地図 2世紀にエジプトのアレクサンドリアで活躍したギリシア人天文学者プトレマイオスの地理書から復元した世界地図。



東へ向かって航海した
ヴァスコ＝ガマ
1469?～1521(→p.78)



●1498年、カリカット
何を求めて来航したのかとガマたちは問われ、「キリスト教と香辛料」と答える。ガマの持参物は「こんなものは領主に献上すべきものではない」といわれ、ポルトガル側の態度な警戒心もあって、領主と友好関係をつくることはできずに終わった。

③マルテルスの世界図(1490年代) 右端はコロンブス(→p.78)がたどり着き、インドだと信じた地域が描かれている。



◆流れ図と解説による時代の概要

地域間の相互関係の変化に着目した流れ図と解説を通し、地域ごとの動きや世界全体の歴史の大きな流れを捉えられます。

◆世界全図と写真によるテーマ

世界全図と写真でビジュアルに表現したマを通し、世界全体の大きな動向を具体的

られます

を見通す「章扉」と各種インデックス

- 古代～15世紀
- 15～18世紀半ば
- 18世紀半ば～20世紀初め
- 20世紀初め～20世紀半ば
- 20世紀半ば～現在

学んでいる時代と地域を確認できる三つのインデックス

◆年表インデックス
巻頭Ⅲ・巻末Ⅱの「日本の歴史」年表とページ右端の印を対応させると、このページの出来事が、日本史のどの時代にあたるのかを確認できます。

左ページ

◆シャール・ジャハーン

◆目次
写真①のインドの建築物には、イスラム建築の特徴がどのように表されているだろうか。

◆イスラムに厳格だった
アウラングゼーブ 1618～1707

◆目次
アウラングゼーブは先代の皇帝たちの対ヒンドゥー政策を安んじて非難した。かたくなともいえる信仰いぢずの生活で、クルアーン(p.36)を自ら書写し、それを売った代金をイスラムの聖者に分け与えた。聖廟もタージ=マハル廟のように荘厳ではなく、質素・清貧をめざした。彼は信仰を重んじる敬けんな人物であった。

64 ← 前のページ 南アジア -p.26

右ページ

リムとヒンドゥー教徒の共生

◆サファヴィー朝アッパース1世を抱きしめるムガル皇帝 サファヴィー朝とムガル帝国は、中央アジアのウズベク族を共通の敵として軍事的に協力した。ムガル帝国の宮廷にはイラン出身の官僚が大勢いたので、二人は兄弟と呼び合い親密な交流をもった。夢の中の話として上のような絵が描かれた。

◆目次
1 下級カースト出身のナーナクによって創始された宗教。イスラムの影響が強く、偶像を崇拝せず、カーストを否定した。

◆目次
2 サファヴィー朝とムガル帝国で共通に使われるペルシア語は、宗派の違いをこえて両国を結びつけた。インドではのちに、ヒンディー語の中にペルシア語の語彙・文字を取り入れたウルドゥー語(パキスタンの公用語)が生まれた。

65 → 次のページ 南アジア -p.130

西暦	日本の歴史
紀元前 2000	縄文 1万年前 日本列島ができる
紀元前 300	縄文 稲作が伝わる
紀元前 1000	弥生 57 倭の奴国王が中国に使いをやめる
200	古墳 239 卑弥呼が中国へ使いを出す
400	飛鳥 583 聖徳太子が摂政となる
600	飛鳥 645 大化の改新
800	奈良 794 平安京に都を移す
894	平 遣唐使が停止される
1167	鎌倉 源頼朝が摂政となる
1192	鎌倉 源頼朝が征夷大将軍となる
1274-81	室町 蒙古襲来(元寇)
1378	室町 足利義満が室町幕府を移す
1467	室町 応仁の乱
1549	徳川 ザビエルがキリスト教を伝える
1573	徳川 織田信長が室町幕府をはるぼす
1590	徳川 豊臣秀吉が全国を統一する
1600	徳川 関ヶ原の戦い
1603	徳川 徳川家康が江戸に幕府を開く
1637	徳川 島原・長門一揆
1641	徳川 オランダ商館を出島に移す
1716	徳川 徳川吉宗の享保の改革
1767	徳川 田沼重次が政治
1787	徳川 松平定信の寛政の改革
1825	徳川 安国船打私争
1853	明治 ペリーが浦賀に来航する
1868	明治 戊辰戦争
1889	明治 大日本帝国憲法が公布される
1894	明治 日清戦争
1904	明治 日露戦争
1910	明治 韓国併合
1918	明治 第一次世界大戦に参戦
1923	明治 関東大震災
1925	明治 男子普通選挙制の実現
1931	昭和 満洲事変
1937	昭和 日中戦争
1941	昭和 太平洋戦争
1945	昭和 原子爆弾の投下、日本降伏
1946	昭和 日本国憲法の公布
1951	昭和 サンフランシスコ平和条約
1956	昭和 日米安全保障条約
1956	昭和 国際連合に加盟
1964	昭和 東京オリンピック
1970	昭和 日本(大塚)万国博覧会
1972	昭和 札幌冬季オリンピック
1972	昭和 沖繩の日本復帰
1972	昭和 日中国交正常化
1973	昭和 石油危機
1995	平成 阪神・淡路大震災
1998	平成 長野冬季オリンピック
2002	平成 日韓ワールドカップ
2009	平成 民主党総選挙
2011	平成 東日本大震災
2012	平成 自民・公明連立政権発足

扱っている時代の範囲

◆地域インデックス
どの地域の歴史をこのページで学習しているのかを確認できます。

◆ページ間インデックス
このページの「前のできごと」と「次のできごと」を紹介しており、前後のページの確認・参照が容易になります。

◆キリン 鄭和がアフリカのマリンディからキリンを明へ連れ帰ると、伝説上の麒麟が地上に現れたと永楽帝(-p.66)は大いに喜んだ。

◆鄭和とヴァスコ・ダ・ガマの航海を比較し、当時の中国とヨーロッパの力の差について考えてみよう。

◆1405年、カリカット
カリカットはインド洋交易の拠点となっており、その地の領主は中国へおもむいたことがあった。鄭和は領主に対して最大限の礼をつくり、カリカットの商人とさまざまな商品を交換した。鄭和は記念として石碑をカリカットに建てた。

◆オルテリウスの世界地図(1570年) 世界最初の近代的な世界図といわれ、右側に楕円形の日本が書き込まれている。

物、人、出来事に関するテーマにイメージできます。

わかりやすい！ ～初学者でも2単位でも流れがよく捉え 世界史の流れがしっかりつながる！ 地域

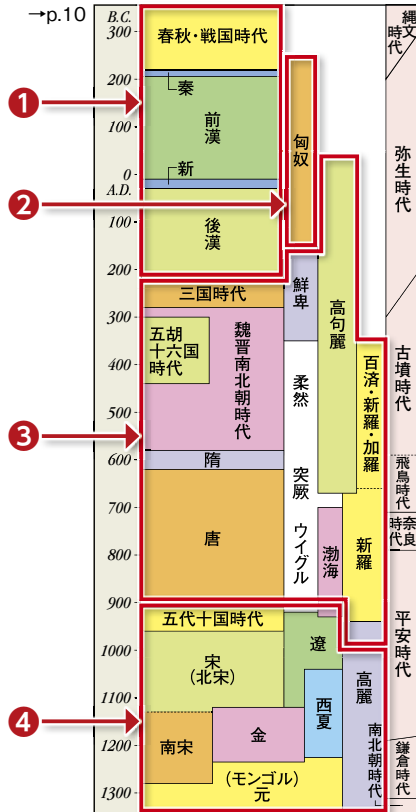
近現代史理解の基盤となる古代・中世史を通史的に学べる構成

1部1章の古代・中世史は、世界の六つの地域をカバーして、近現代史を学ぶ上で必要となる知識を、もれなくコンパクトにまとめています。

東アジア古代・中世史

1部1章1節のページ構成

- ① 殷～後漢
 - ② 騎馬遊牧民の展開
 - ③ 三国～唐
 - ④ 五代十国～元
- 4見開き(計8ページ)
で、東アジア古代・中世の全時代を網羅。



2章1節(明・清～)へ

① 中国に生まれる統一王朝



② 草原をかける遊牧民族



③ 東アジアの国際的な大王朝



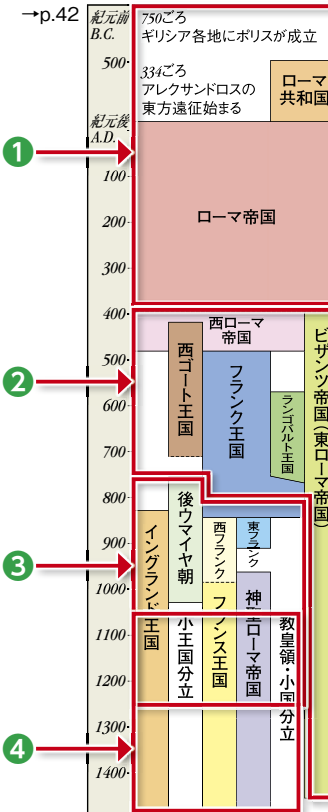
④ 諸民族によって統治された時代



ヨーロッパ古代・中世史

1部1章5節のページ構成

- ① ギリシア・ローマ文明
 - ② ゲルマン人の移動とビザンツ帝国
 - ③ 封建社会と十字軍
 - ④ 商業と国家の発達
- 4見開き(計8ページ)
でヨーロッパ古代・中世の全時代を網羅。



2章2節(ルネサンス～)へ

① ヨーロッパ文明



② キリスト教と東西に



③ 教皇の強大な権



④ ヨーロッパにおける



られます

の通史がスムーズに流れる古代・中世史

◆ヨーロッパ古代・中世史では… 平成25年度版から2ページ増

文章を補充して政治・経済・文化とバランスの良い丁寧な記述にすることで、古代・中世史の流れを捉えやすくしました。

～1部1章の各地域通史の本文ページ数～

- 1節：東アジア史 (p.12-15、18-19、22-23) 計8ページ
- 2節：南アジア史 (p.26-27) 計2ページ
- 3節：東南アジア史 (p.30-31) 計2ページ
- 4節：西アジア・北アフリカ史 (p.34-39) 計6ページ
- 5節：ヨーロッパ史 (p.44-45、48-53) 計8ページ
- 6節：南北アメリカ史 (p.57) 計1ページ

の源流



政治史の補充

ポリス間対立の記述の補充で、ギリシア文明の衰退の過程をさらに捉えやすく！

ギリシア文明 ヨーロッパの古代文明は南ヨーロッパの地中海を取り囲む地域で生まれた。地中海は沿岸の諸都市を結ぶ交通路として人と物の交流をうながし、まとまりの強い古代文明の発展に寄与した。地中海を舞台とする最初の文明は、東部のエーゲ海域で生まれた。やがてギリシア本土に文明の中心が移り、アテネやスパルタなど、ポリスとよばれる都市国家が前8世紀ごろ成立した。なかでもアテネでは、成年男子の市民全体が出席する民会を舞台に直接民主政が実現した。

ギリシア文化は、いきいきとした人間的感情や合理的な思考を尊重した。ギリシア神話の神々は、人間同様の感情と個性をもち、文学や芸術の主要な題材となった。学問では、ソクラテスやプラトン、アリストテレスなどの哲学者、ビュタゴラスなどの自然科学者が現れ、ヨーロッパの学問の基礎を築いた。

本文を追加・変更

その後勢力を拡大するアテネと、これに反発するスパルタを中心とする二つの勢力の間で戦争が起こり、以後有力ポリスの勢力争いが続いて、都市国家は著しく衰退した。前4世紀には北方のマケドニアが力をのばし、ギリシア全土を征服した。その王アレクサンド

分かれるヨーロッパ



文化史の補充

ビザンツの文化の記述の補充で、スラヴ世界の形成過程をさらに捉えやすく！

ギリシア正教会とビザンツの皇帝 東ローマ帝国(ビザンツ帝国)は西ローマ帝国の滅亡後も皇帝の支配の下で存続した。6世紀のユスティニアヌス帝のとき、地中海を囲む大帝国へと復興したが、彼の死後、領土はしだいに縮小した。皇帝は西ヨーロッパと異なり、世俗の支配権と最高の宗教的權威とをあわせもつ専制君主であった。ビザンツ皇帝の下、11世紀にはローマ=カトリック教会と完全に分離したギリシア正教会が確立した。文化面でも独自の発展を強め、美術では神秘的で色彩豊かな宗教画が数多く制作された。ゲルマン人が西にいった東ヨーロッパでは、スラヴ人が各地に移動して、国家を形成した。これらのスラヴ人国家の多くはギリシア正教を取り入れ、ビザンツの文化の影響を強く受けながら発展した。

力と十字軍遠征



政治史の補充

十字軍遠征の結果や影響の記述の補充で、その歴史的意義をさらに捉えやすく！

十字軍遠征と文化交流 教皇はまた、聖地エルサレムをイスラーム勢力から奪回するために十字軍を組織した。この遠征は、内部で強まりつつあった社会の活力を外部に向け、人々の信仰心をいっそう高めるきっかけとなった。最初の遠征で十字軍はエルサレムをはじめ、多くの地域を占領し、その地いくつもの小国家を建設した。しかしムスリムの反撃で占領地はしだいに奪還され、十字軍はその後何度も編成されながらも失敗して教皇の權威の衰えを招いた。他方、十字軍は東方との交流を生むきっかけとなり、哲学や科学をはじめ、イスラームのすぐれた文化の影響がヨーロッパ全体に及んだ。

まちとくにの発達



経済史の補充

都市間交易の発達と大商業圏成立の記述の補充で、ルネサンスへつながるヨーロッパ世界の発展過程をさらに捉えやすく！

都市(まち)と商業の発達 自給自足的な農業にたよってきたヨーロッパ社会にも、11～12世紀には農業生産力の向上や人口増加、人と物の活発な移動が起こり、農村社会から離れた専門の職人や商人が数多く現れた。彼らは、売買に適した交通の要所で城塞に隣接した地点に住みついて、職種ごとにギルド(同職組合)へ結集して活動した。外からの攻撃を防ぐために集落のまわりにも城壁をめぐらし、内部では商工業に適した独自の法によって安定した平和な社会を確立した。こうして外見も生活・社会のしくみも周囲の農村とは異なる都市がつくられた。

都市はときには城主と対立しながら自治を拡大し、多くの人口を引きつけて急速に発展した。都市間を結ぶ交通路も発達して貿易網が整備された。都市外の交易活動を安全かつ円滑に行うため、都市同士や都市に隣接する領主との間に協定や同盟が結ばれた。とりわけ地中海地方と並んで、北海・バルト海域を中心とする北ヨーロッパでは毛織物や魚、穀物などの食料、金属などの工業原料と製品が海上航路を中心に大量に行きかい、安定した大商業圏が成立した。

わかりやすい！ ～初学者でも2単位でも流れがよく捉え 世界史の流れがしっかりつながる！ 因果

さらに丁寧でわかりやすくなった近世・近代史の本文記述

歴史事象の理由や背景に関わる本文記述をさらに充実させ、事象間のつながりをわかりやすくしました。これにより、複雑化していく近世・近代の歴史の流れをよりスムーズに捉えられます。

ヨーロッパ近世・近代史の流れ（部分）

1部2章2節 大航海時代と新たな国家の形成

1. ヨーロッパで花開く個性と自由
2. 大航海時代の始まり
3. ヨーロッパの新しい国際関係
4. イギリスの革命とフランス絶対王政 ※1
5. 中央・東ヨーロッパ諸国の改革とロシアの拡大
6. アジア・アメリカに進出するヨーロッパ

3章1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命

1. イギリスから独立するアメリカ
2. ヨーロッパ近代化の出発点 フランス革命
3. ナポレオンの支配からウィーン体制へ ※2
4. フランス革命と社会生活の変化
5. 大西洋を越えて広がる革命の波
6. 産業革命という大変革の開始
7. 資本主義の発展と社会主義運動の発生

3章2節 自由主義・ナショナリズムの進展

1. 1848年 -19世紀の転換点

した四国同盟(のちフランスが加わり五国同盟に)が結ばれた。この結果成立した復古的で反動的な国際秩序をウィーン体制という。しかしヨーロッパ各地で、自由主義とナショナリズムの動きが強まっていた。

→p.103

単元間がつながる！

↓ p.116

1 1848年 -19世紀の転換点

七月革命と二月革命 ウィーン会議後のフランスでは、立憲君主政の下で王政が復活していたが、旧貴族や教会を優遇するなど、しだいに反動化したため、1830年に七月革命が起こり、王族で自由主義的なルイ=フィリップによる“七月王政”が始まった。この影響で、ベルギーが独立を果たした。またフランスでは産業革命が本格化し、富裕な商工業者や金融業者が力をふるうようになった。これに対し選挙権の拡大と議会の改革を求める運動が広がり、48年2月、共和主義者と社会主義者が協力してパリで蜂起し、革命に成功した(二月革命)。成立した第二共和政では社会主義者が歴史上初めて政府に加わり、男子普通選挙も行われたが、農民や共和主義者と対立し、政権から除かれた。

◆単元間をつなぐ本文記述を充実

単元冒頭で、前に学習したウィーン体制に触れることにより、七月革命が起こる経緯をスムーズに捉えられます。

新設!

↓ p.86-87

◆テーマを新設

近世の中央・東ヨーロッパとロシアに関するテーマの新設(2ページ)により、ヨーロッパの近代化の流れや勢力関係の変化をよりスムーズに捉えられます。



↑ マリア=テレジアとその家族

●オーストイセンが、もとで近代進し、強国だったことを

本文を追加



- オランダで造船技術を学ぶビョートル1世
ビョートル1世は身分を隠して造船技術や医療技術を学び、多くの専門家を雇い入れて帰国した。
- ポーランド分割



5 中央・東

オーストリアとプロイセンの近代

が、プロイセンなプロイセンに敗れ、プロイセンであったフランス教育などの啓蒙的

一方、プロイセン強化し、オーストリアもこれを退け、ポーランドなど

ロシアの拡大

してサンクトペテロブルグを領土に拡大してき、軍の伸長は著しく、デンの海軍にかわ

られます

関係の記述が充実した近世・近代史

※1 ↓ p.85 「イギリスの革命とフランス絶対王政」

絶対君主の時代 ルイ14世などに引き続き ロシアのピョートル1世(大帝), プロイセンのフリードリヒ2世(大王), オーストリアのマリア=テレジアなど, 18世紀には各国に専制君主が現れ, ヴェルサイユをモデルにした宮殿を造営するなど自らの権威を誇示するとともに, 西欧の技術や制度を導入して近代化の政策を進めた。また, ラテン語にかわって各地域の標準語となる言語が

※2 ↓ p.102-103 「ナポレオンの支配からウィーン体制へ」

大陸封鎖令を發布した。また新たな支配地でナポレオン法典を施行して人々の支持を集めようとした。プロイセンのように近代化に向けた改革を自ら行った国もあり, この結果, 彼の大陸支配中に市民革命の原理がヨーロッパ諸国に広まることになった。しかしナポレオンが, 大陸封鎖令を破ったロシアを討とうとした**ロシア遠征**で敗れると, 物資の取り立てなどの専政に苦しんでいた



ここに注目
マリア=テレジアがこれほど多くの子供をもつたのには, 理由があるのだろうか。

オーストリアを守るために奮闘した皇后
マリア=テレジア
1717~80



マリアとプロイセンの専制君主の化政策を推し進めていって補完!

世界史の中の 日本

エカチェリーナ2世と日本の漂流民

1782年, 伊勢国から江戸へ向かって出航した日本の高船が, 約7か月の漂流のち, ロシア領であったアリュシャン列島の一つに漂着した。大黒屋光太夫をはじめとする一行は, 帰国を願ひ出るために, エカチェリーナ2世に会いにサンクトペテルブルクまで向かった。シベリアへの拡大を進めていたロシア側は, 鎖国を続ける江戸幕府(→p.73)に交易をうながすよい機会と考え, 光太夫らの帰国を許し, 1792年, ラクスマンを使節として送った。こうして光太夫たちは日本に戻ったが, ラクスマンが途中でロシアへ戻ってしまったため, 交渉は成立せずに終わった。



④ **エカチェリーナ2世(1729~96)**
ドイツ貴族出身で, 16歳でロシア

●ロシアが、専制君主のもとで軍力強化と領土拡大を進め、周囲に脅威を及ぼし始めたことを補完!

出来事と出来事をつなぐ記述を補充
因果関係がわかりやすくなり、流れがスムーズに!

ヨーロッパ諸国の改革とロシアの拡大

オーストリアでは18世紀半ばに**マリア=テレジア**がハプスブルク家の領土を継承した

が反対し, オーストリア継承戦争が始まった。

たことを契機に, オーストリアは, 外交では宿敵と同盟を結び(外交革命), 内政では経済・軍事・

諸改革に着手して, 近代化を推進した。

ンの**フリードリヒ2世**は, 官僚制を整え軍力をマリアが失った領地の奪還をめざして始めた**七年戦**プロイセンの強国化を実現した。

の東ヨーロッパ地域は, 西ヨーロッパに向けての地となり, 農民の身分は低く近代化が遅れた。

ロシアは, **ピョートル1世**(大帝)以来, 不凍港を求めて**南下政策**を始めた。また, バルト海に進出

ブルクに都をおき, さらにシベリア征服によりた。ピョートル大帝によって設立されたロシア海

, 17世紀末まで優勢だったデンマークとスウェーデンの力をつけ, 18世紀にはスウェーデンとの北方

戦争にも勝利し, バルト海の覇権をにぎることに成功した。

1772年には**エカチェリーナ2世**がプロイセン・オーストリアとともに第1回の**ポーランド分割**を行って西方に領土を広げ, オスマン帝国からクリム(クリミア)半島を奪って黒海沿岸まで進出した。

5 ポーランド王国は11世紀以来存続してきたが, これら3か国が行った三度の分割によって滅亡し, ポーランド人は, 1918年にいたるまで, 他民族による支配を受けることになった。

科学革命と啓蒙主義 17世紀は, “科学革命の世紀”とよばれる。**ガリレイ**から**ニュートン**にいたる自然科学の急速な進歩の

10 なかで, 理論(法則)を数学的に表現し, 公開の場で業績を競い合う, ヨーロッパ的な自然科学の研究スタイルが確立した。理論は実用的技術にも応用された。航海術や軍事技術も発展し, ヨーロッパの世界進出に大きな役割を果たした。

15 18世紀には, 地球大に広がった世界や“科学革命”の成果を前にして伝統的なキリスト教的世界観への反省が起こり, 自然と社会を合理的に理解し, ヨーロッパ社会に残る非合理的側面を批判しようとする**啓蒙思想**が生まれた。イギリスの**ロック**, フランスの**ヴォルテール**, **モンテスキュー**, **ルソー**らの思想は, のちにヨーロッパの市民革命を支える理論となった。

年	おもな発見・発明
1609	ガリレイ(伊) 天体望遠鏡を発明
09	ケプラー(独) 惑星の法則を発見
16	ハーヴェー(英) 血液循環の発見
40	レーヴェンフック(蘭) 顕微鏡を発明
62	ボイル(英) 気体の膨脹に関する法則を発見
75	ライブニッツ(独) 微積分学の確立
87	ニュートン(英) 万有引力の法則を確立

⑩ 17世紀のおもな発見・発明

市民の権利を訴えた思想家

ジョン=ロック 1632~1704



名誉革命(→p.84) 後あらわした「統治二論」(1689年)で社会の成立を人々が結ぶ「社会契約」に求めた。国民の利害と対立する政府を取りかえること(革命権)もその契約内容の一つであり国民の権利だと主張し, 名誉革命を擁護した。人間を理性的で勤勉なものと考え, 自由と人権を人間社会の基礎におく考え方は, 啓蒙思想の一つの源流となった。

流れを良くする本文の再整理

わかりやすい！ ～初学者でも2単位でも流れがよく捉え 世界史の流れがしっかりつながる！ 経済

経済の動きを重視した内容構成

政治と経済の結びつきが緊密になる戦後史は、時代・地域ごとに政治のみならず経済の動きもふまえて整理・構成しており、戦後の歴史の流れをスムーズに捉えられます。

戦後史は3つの時代に整理！

冷戦期 (1945～60年代)

2部2章1節 冷たい戦争の時代

1. 新たな対立と協調の模索
2. 対立する二つの陣営
3. アジアの独立と経済発展への道
4. 第三勢力の形成と南北問題
5. 中東戦争とイスラーム復興
6. アメリカ・ソ連の緊張と緩和

節冒頭の世界経済の記述から、戦後史の流れがつかめる！

1 アメリカ中心のブレトンウッズ体制の創設を通して、西側陣営の形成と冷戦の始まりが見えてくる。

冷戦終結期 (1970～80年代)

2節 冷戦終結への道のり

1. ゆらぐアメリカと先進各国の変化
2. 経済発展に取り組むアジア諸国
3. 冷戦の終結と変わる世界構造

2 ブレトンウッズ体制の崩壊と新自由主義までの動きを通して、西側陣営の揺らぎと冷戦秩序の変容が見えてくる。

グローバル化の時代 (1990～)

3節 地球社会への歩み

1. グローバル化する社会と経済
2. 超大国アメリカと中東情勢
3. 日本を取り巻くアジアの動き
4. 地球的課題と解決への努力

3 世界経済の一体化と地域統合の動きの強まりを通して、冷戦後のグローバル化の進展が見えてくる。

2節 冷戦終結への道のり



ベトナムで枯葉剤を散布するアメリカ軍機(1970年5月) アメリカ軍は密林にひそむゲリラを攻撃するために、枯葉剤を散布し、土地を破壊した。人体にも深刻な後遺症を与えた。

1 ゆらぐアメリカと先進各国の変化

アメリカの“偉大な社会”計画

ジョンソン大統領(在任 1963-69) 策を引き継ぎ、
“愛と平和”を訴える
“偉大な社会”計画
1969年8月、ニューヨーク州ウッドストック近郊には、40万人もの若者が集まった。彼らはロック音楽が盛りひびくなかで、土砂降りの雨にぬれながら人種の別なく踊り、語り合い、“愛と平和”を訴えた。60年代におけるロックフェスティバルは、若者の結びつきを強め、反戦運動を行う場となった。

未来へ活かす歴史

“愛と平和”を訴える
ロックフェスティバル

1969年8月、ニューヨーク州ウッドストック近郊には、40万人もの若者が集まった。彼らはロック音楽が盛りひびくなかで、土砂降りの雨にぬれながら人種の別なく踊り、語り合い、“愛と平和”を訴えた。60年代におけるロックフェスティバルは、若者の結びつきを強め、反戦運動を行う場となった。

ベトナム戦争とアメリカ

東南アジアの共産主義陣営に軍事顧問団を派遣し、入を拡大してベトナム戦争が始まった(1965-75)

1965年、アメリカは北ベトナム爆撃を軍事援助を受けた北ベトナムと南ベトナムのベトナム反戦運動に支援され、ベトナムにアメリカ軍を撤退させた。75年サイゴンで北ベトナム社会主義共和国が誕生した。この衝突をくぐり、アメリカ社会を動揺させた。アメリカではベトナム反戦運動と公民権運動が盛んになった。

204 初めから 東南アジア →p.196

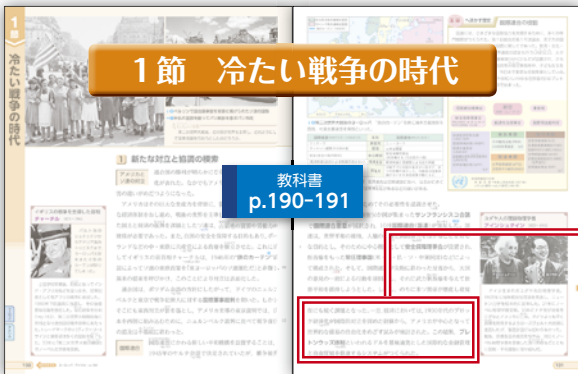
2節 冷戦終結への道のり

↑ p.204-205

1 在にも続く課題となった。一方、経済においては、1930年代のブロック経済化が国際的対立を深めた経験から、アメリカが中心となって世界的な貿易の自由化をめざす試みが検討された。この結果、ブレトンウッズ体制といわれるドルを基軸通貨とした国際的な金融管理と自由貿易を推進するシステムがつけられた。

1節 冷たい戦争の時代

教科書 p.190-191



られます の動きがストーリーを生む戦後史

に注目
はアメリカは、枯葉剤を散布してまで、ベトナムへの介入を続けようとしたのだろうか。



進各国の変化

大統領は暗殺されたケネディの政
1964年、黒人の人種差別撤
奴隷解放宣言から約100年後
に率いられた非暴力の公民権
偉大な社会”を掲げ、社会福祉
5
ベトナム戦争の拡大によ
主義化を恐れたアメリカは、
し、しだいにベトナムへの介
10
撃(北爆)を開始した。中ソの
ベトナム解放民族戦線は、世界的
ベトナム和平協定により、73年
ゴンは陥落し、翌76年ベトナム
15
戦争は植民地支配や冷戦体制を
した。
公民権運動が結びつき、各地で

未来へ活かす歴史 人種差別への挑戦

私には夢がある。いつの日かジョージアの赤い丘で、奴隷の子孫と奴隷所有者の子孫が兄弟として同じテーブルに付きあう。
(1963年8月28日、ワシントン大行進後の演説)

アメリカでは第二次世界大戦後も黒人の子供が白人と同じ教室で授業を受けられない人種隔離教育や、バスにおける人種隔離が行われていた。1955年にある黒人女性がバスの中で白人に席を譲ることを拒否して逮捕された。これに反対して始まったバスのボイコット運動の中に、若きキング牧師がいた。公民権運動の指導者として知られ、68年に暗殺されたキング牧師は、アメリカで唯一誕生日が祝日になっている人物である。人種差別はまだ根絶されたとはいえないが、2009年にはバラク・オバマがアフリカ系として初のアメリカ大統領に就任した(→p.212)。



●ワシントン記念塔広場で演説をするキング牧師 ワシントンへの大行進ののち、歴史に誇る演説を行った。

大規模な反戦集会が組織された。大学生・若者たちも討論会やロックコンサートなどで反戦を訴え、こうした運動を機に若者独自のライフスタイルやファッションなどの多様な文化も生まれた。

世界同時不況と先進国の取り組み

ベトナム戦争に加えて、“ニクソンショック”がアメリカの国際的な威信を傷つけた。アメリカのニクソン大統領は、膨張する軍事費や経済援助などによって悪化した経済を立て直すために、1971年新経済政策の一環としてドルと金の交換を停止した。世界の通貨制度は、ドルを基準として交換比率を固定する固定相場制から、そのつど交換比率の変化する変動相場制に移行し、ドルの地位は低下した。これはアメリカ中心のブレトンウッズ体制の崩壊を意味し、世界経済は不安定性を高めた。

さらに1973年10月の石油危機は、それまで安価な原油を利用して工業化を進めてきた先進工業国の経済に打撃を与え、“世界同時不況”を発生させた。こうした状況の下で、主要先進国が協調して経済危機に対応するために、75年以来主要国首脳会議(サミット)が開かれるようになった。

先進各国も経済対策に取り組んだ。1980年代になるとイギリスのサッチャー政権やアメリカのレーガン政権は、公的部門の業務を縮小して教育・福祉などへの政府の支出を削減しつつ(“小さな政府”)、経済活動分野での規制を減らして社会を活性化させようと、国営企業の民営化や市場の自由化を進めた(新自由主義)。日本・西ドイツでも鉄道の民営化などが行われた。こうした改革による規制緩和や市場重視の自由競争には弱者切り捨てという批判もある。

1 通貨はドルによってその価値が示され、ドルは固定価格で金と交換できるという金ドル本位制(→巻末1)がとられていた。

2 一方、1972年にニクソン大統領が中国を訪問し、米中国交正常化を進めたことも“ニクソンショック”とよばれる。

3 1990年代には、国際政治や地域紛争・地球環境問題など、世界が直面している広範な問題を調整するための場にもなっている。

4 公共部門の縮小によって財政支出を減らし、市場原理にもとづく経済の自由競争によって経済成長を進めようとする考えで1980年代から強調された。

世界史の中の日本

“小さな政府”の影響
日本でも1987年に巨額の負債を抱えていた国鉄が民営分割化され、JRとしてスタートした。改革が市場と経済の効率性だけを重視すれば、労働や教育、福祉などの分野で、人々の生活と社会的権利を侵害することにもなりかねない。少子高齢化社会では福祉はますます重要になっており、課題は多い。



●JRの発足式

◆本文
ニクソンショックや石油危機による世界経済の混乱が、サミットや小さな政府といった西側諸国の変革をもたらしたことがつかめます。

◆側注
難解な経済の専門用語を丁寧に解説し、スムーズな本文理解を助けます。

◆コラム
世界経済が、当時の日本とどのように関連していたのかがわかります。

3 節 地球社会への歩み

教科書 p.210-211

3 地域統合の動き
グローバル化とともに、国家の枠を越えた地域経済圏を形成する地域統合の動きも強まった。
ヨーロッパでは、1993年にマーストリヒト条約が発効して、ECがヨーロッパ連合(EU)へと発展し、一部では単一通貨(ユーロ)の導入が進んでいる。また、旧社会主義国家を加えて拡大するEUは、2010年にはユーロ危機に落ちいったものの、2013年には28か国となり、外交や安全保障の共通化によるいっそうの統合が探られている。
さらに、アメリカ合衆国、カナダ、メキシコの間では1994年に北米自由貿易協定(NAFTA)が発足した。

わかりやすい！ ～初学者でも2単位でも流れがよく捉え 学習上のつまずきをカバー！ 不足しがち

諸文明の地理的背景がわかる「風土ページ」

1部1章の全地域通史の冒頭に設置しています。各地の諸文明がどのような風土のもとで形成されてきたのかを理解できます。

A 歴史を概観する年表と地図

王朝の変遷年表と転換点となる時期の版図地図で、時間（タテ）と空間（ヨコ）の両面から、古代・中世史の大きな流れをつかめます。

B 歴史の舞台をイメージできるイラスト地図と雨温図

ビジュアルな表現で迫力あるイラスト地図と主要都市の雨温図を通して、地域の地形や植生、気候の様子までをイメージできます。

C 歴史を生み出した風土と人々の様相がわかる解説

各地域に特有の風土が、どう人々の営みと関わり合いながら、歴史の形成を促してきたのかを理解できます。

D コラム「世界史へのいざない～自然環境と歴史」

森林、河川など五つの自然環境と人類の歴史との関係について掘り下げ、地理的条件が歴史へ及ぼす影響を理解できます。

世界史へのいざない 自然環境と歴史 1～6

巻頭Ⅲ 導入	p.28	モンスーンと海洋
p.10 草原からみた農耕地帯	p.32	乾燥地帯に点在するオアシス
p.24 文明の誕生と河川	p.42	森林と開拓

→p.42-43

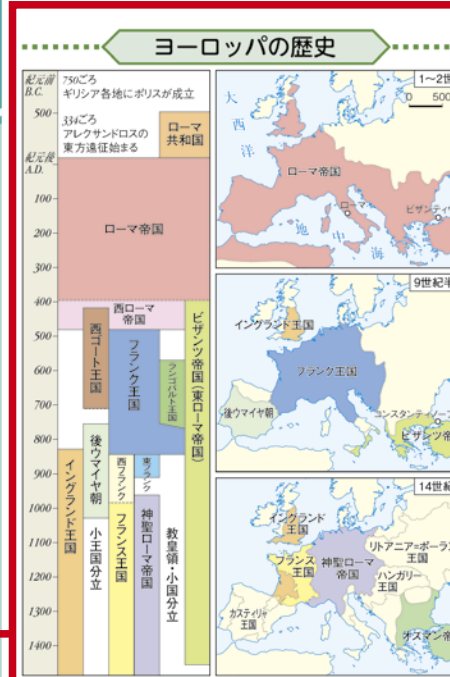
巻頭に設置した 2種類の世界全図

行政区分と植生分布の二つの世界全図を開きやすい巻頭に設置しており、必要な時にいつでも確認できます。



5節

ヨーロッパの文明



A

D



世界史へのいざない 自然環境と歴史

森林と開拓

森林は古来より人間の生活にさまざまな面で貢献するとともに、開く可能性を秘めた未開地ともみなされてきた。中世初期まででも大地はうっそうとした森林におおわれ、人間はその間を縫って川の周辺で暮らしてきた。しかし中世中期以降人口の増加(→p.10)活動の進展によって、しだいに森林が伐採され、耕地や牧草地に転換し、人口が希薄なエルベ川以東も西から植民者が移住して、森林はの食を支える穀倉地帯へと変貌した。しかし深い森の情景や樹木は、各地の民話や風習、クリスマスツリーなどに残っている。

Q 1 図①でエルベ川以東の地域の変化を確認し、異なる点をあげてみる。
2 巻頭Ⅲで、ヨーロッパと日本に吹く風向きを確認し、異なる点をあげてみる。

られます

な地理的認識を育む「風土ページ」

●豊かさを求めて

—ヨーロッパの風土と人々

ヨーロッパはユーラシア大陸の西端を占め、日本よりも高緯度にあるが、大西洋の暖流と偏西風の影響で気候は比較的温和である。アルプスやピレネーなどの山々によって南北に分断され、独特の風土をつちかしてきた。南部の地中海地域は、一年中気候が温暖で夏の雨は少なく土壌がやせていて、果樹栽培や牧畜に適している。そこで生まれた明るく開放的なギリシア・ローマの文明は、のちのヨーロッパ文明の基礎をつくった。北部はやせた平原が広がり、アルプスに発する河川が流れる。南部に比べて雨が少なく、小麦などの穀物や牧畜を中心とする農業が発達した。

ヨーロッパ内部に社会的精神的な共通性がつくり出され、独自の文化が発展するうえで、キリスト教はきわめて重要な役割を果たしてきた。



6 森林の変化
人間が切り開いたヨーロッパの森林は、900年ごろと1900年ごろを比較しよう。風や海流の影響を比較しよう。



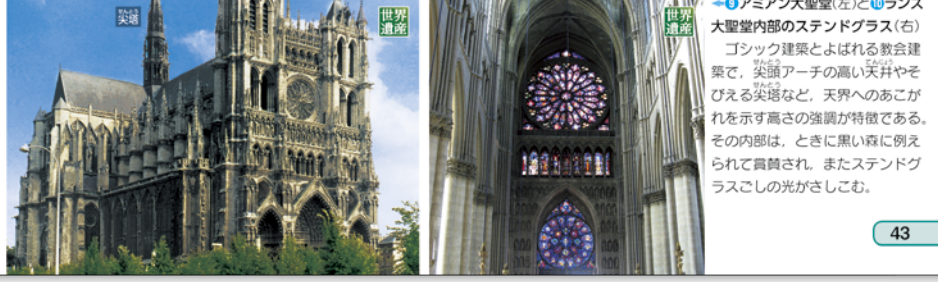
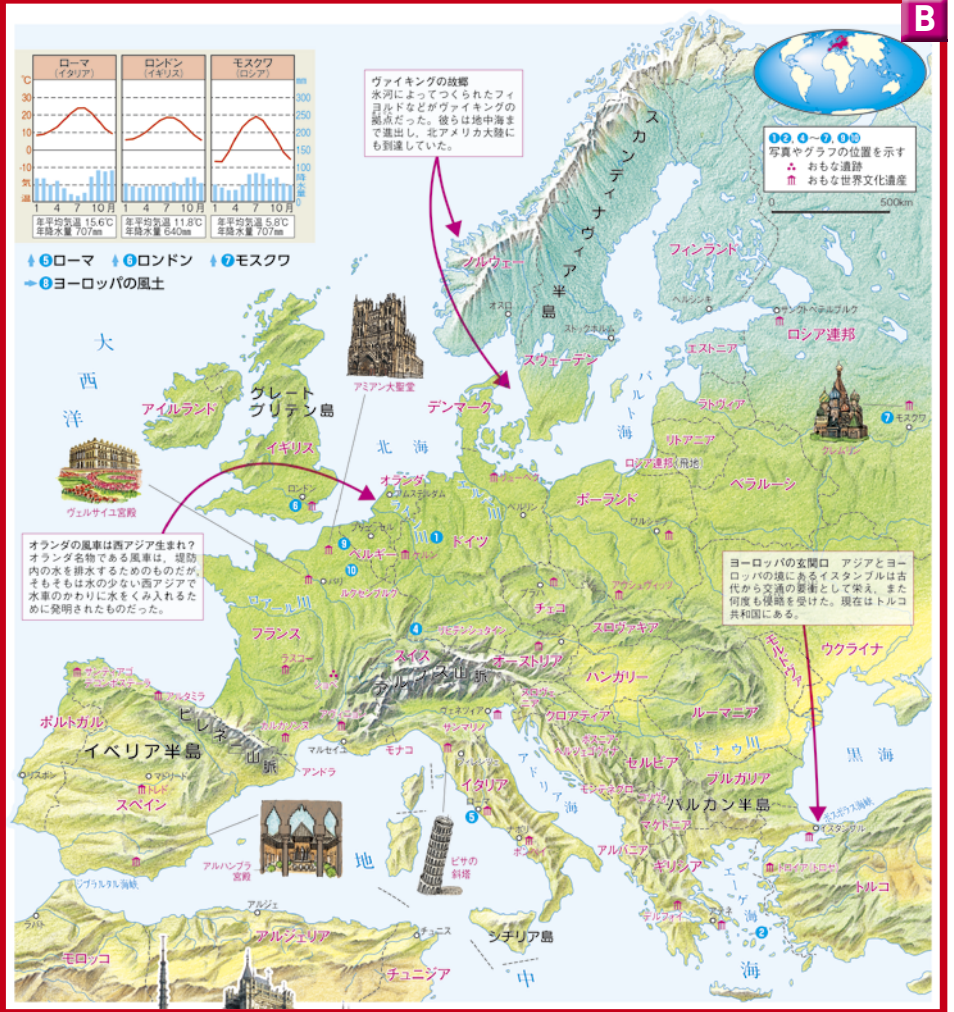
世界史特有の用語を巻末で解説！

生徒がつまずきやすい世界史特有の抽象的な用語については、混同しやすい用語との違いにも配慮しながら巻末に設置した「世界史 頻出用語解説」で説明しています。

↓巻末 I

世界史 頻出用語解説

社会	民族 言語や宗教・文化などの共通性にもついで、祖先が同じであるとの意識をもった集団。歴史の経過によって形成され、固定的なまとまりではない。
政治	中央集権 中央政府に権限や財源を集中し、地方政権
文化	国民国家 主権国家のうち、国家の構成員である国民が一体性をもって主権を行使する国家。国民は同じ民族・宗教であることを理想とするが、現実的には少数派を含まない国家はありえない。
	覇権国家 軍事、政治、とくに経済力においてほかの国々をしごき、圧倒的な影響力をもった国家。17世紀のオランダ、19世紀のイギリス、20世紀のアメリカがその例である。



●10アミアン大聖堂(左)と●10ランス大聖堂内部のステンドグラス(右) ゴシック建築とよばれる教会建築で、尖頭アーチの高い天井やそびえる尖塔など、天界へのあこがれを示す高さの強調が特徴である。その内部は、ときに黒い森に例えられて賞賛され、またステンドグラスごしの光がさしこむ。

ためになる！ ～世界史を学んで良かったと思えます 私たちと世界が結びつく！ 日本史も含め

特設ページ「日本列島の中の世界史」

日本における世界史との関連に気づける特設ページを、特につながり深かった三つの時代に設置しています。日本国内の動きと世界の動きとの関連を、ステップをふみながら段階的に捉えていきます。

世界史へのいざない 日本列島の中の世界史

- 1 世界に知られた石見銀山…………… 92
- 2 幕末に伝わった最新技術と世界情勢…………… 140
- 3 工業化をもたらした近代綿紡績…………… 174

新設！

↓p.174-175

世界史へのいざない

日本列島の中の世界史 3

工業化をもたらした近代綿紡績 —中国市場の争いと第一次世界大戦—

■学習のねらい■ 18世紀半ばに始まったイギリスの産業革命は、機械綿織物業を原動力に発展した。世界市場を制覇するかにみえたイギリス綿製品は、19世紀末になるとアジアでの優位性を失う。産業革命発祥の地にちなんで“東洋のマンチェスター”とよばれた日本の一大紡績都市、大阪の出現を手がかりに、日本国内と世界の動きをみていこう。

④日本の綿糸の生産と輸出入の変化
 (『日本紡績史』)



Q 輸出>輸入となったのはどのようなできごとのおとだろうか。



①大阪の紡績工場と②その内部(大正時代) 1883年、イギリスから最新鋭のミューール紡績機1万500台を購入して日本最初の大紡績工場が大阪で操業を開始した。昼夜2交代制の工場は、日本初の電灯を設置した民間施設であった。(『東洋紡績史』毎日新聞社提供)



1. 中国市場と綿

いち早く産業革命を迎えたイギリスは、中国市場への進出をねらっていたが、イギリス産の綿糸・綿布は中国では人気がなかった。一方、日本でつくられた綿糸・綿布は、アジア各地に輸出され、19～20世紀に世界の3分の1の人口を抱えた中国にも輸出された。

③上海の港(1860年ごろ) 南京条約で開港され、巨大な市場を求めてやってきた欧米諸国の商社(ファクトリー)が立ち並んだ。



●自給自足される中国の綿糸・綿布

今や、福建の農民は、他の作物に交えて、一定の割合で砂糖を栽培する。これは単に砂糖生産だけをやる農家ではなく、普通の農家が行っていることである。農民は砂糖を近隣の商人に売却し、その代価を受け取る。その一部には棉花が含まれ、次のように加工する。

収穫物の取り入れが終わると、農家の全ての働き手は古いもぎきも綿花を植き、紡ぎ、織り上げる。できあがったこの手織りの織物は、重くて耐久性がある素材で、これを自分たち自身が身につける。…全て農家で生産され、棉花の価格、ないし棉花を購入するために農民が渡す砂糖以上のコストは文字通り何もかからないのであり、農民自身の節約のための製品である。福建の農民はこのように、単に農民であるだけではなく、農家と製造業者を一身に兼ねている。

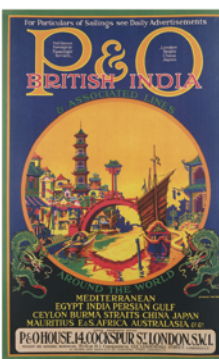
(村上廉訳 1852年[British Parliamentary Papers] ミッチェル報告書より、一部契約・技術 ※ミッチェルは、廈門のイギリス領事館の書記官を務めたイギリスの外交官)

年代	おもなできごと(○はおもな時期を表す)
18世紀半ば	◇イギリスで A が始まる(→p.110)
1765	ワットが蒸気機関を改良
	◇イギリスが中国市場をねらう
1861	アメリカで南北戦争が始まる(～65年)(→p.124)
	◇棉花の産地として B ・エジプトが再び注目される
1883	大阪紡績工場が創業を開始
	◇日本で紡績や鉄道を中心に会社の設立があいつぐ
1893	日本郵船がタタ商会と共同でボンベイ航路を開航
1894	日清戦争(～95年)(→p.143)
	◇日本の C の生産量・輸出量が増加
1914	第一次大戦が始まる(～19年)(→p.158)
	◇日本とアメリカが好景気に見舞われる(→p.165)

④綿紡績業を取り巻くおもな動き(18～20世紀)

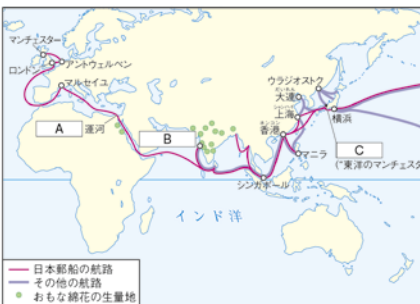
Q 教科書を参考に、図⑥のA～Cに適切な言葉を入れよう。

2. 手を結ぶインドと日本



綿布・綿糸の原料で供給の勢いを失うと、始まった鉄道建設による量輸送が可能となり、で日本初の遠洋定期航路インド綿花を日本へ大

⑤イギリスのP&O(ペンシユラ&オリエンタル)社のポスター。インド綿花を輸送するボンベイ航路は、P&O社をはじめとする欧米3社が独占しており、その運賃は高額であった。



3. 第一次世界大戦の影響 —イギリス

アジア市場での綿糸の動きは、1880年代から大きく変らにインド棉花を使用した日本産綿糸の中国輸出も進んで戦場とならなかった日本は、国産綿糸の中国輸出でイギ

綿布	イギリス	日本	その他	
1913年	53%	20	27	
1929年				
化学製品	イギリス	日本	アメリカ	その他
1913年	21%	14	6	63
1929年	イギリス 16	日本 19	アメリカ 6	その他 59
自動車	イギリス	日本	アメリカ	その他
1913年	23%	1	22	46
1929年	イギリス 6	日本 37	アメリカ 46	その他 11

⑥中国のおもな輸入品とその相手国 1929年の綿布の割合は、イギリス22%、日本66%、その他12%であった。(『Department of Overseas』)

Q 数値をもとに図⑥の帯グラフを完成させよう。

⑦成金の風より、日本に

た深みのある世界史記述

A 導入となる「学習のねらい」

扱っているテーマを明確にすることで、取り組みやすくしています。大きく掲載した写真資料を通して、学習への興味・関心も高められます。

B テーマを紐解くステップ！

写真や年表、地図やグラフなどの様々な資料と解説で紹介したテーマを紐解く視点を通して、一步一步テーマへと迫れます。

C 知識の確認ができる作業コーナー！

地図や年表などを活用した作業を通して、テーマを紐解くキーワードとなる重要な知識を確認できます。

ある綿花の一大供給地はアメリカであった。しかし南北戦争で綿花の低価格で質のよいインド綿花が再び注目を浴びた。19世紀半ばになり、伝統的な綿花産地のデカン高原などと、貿易港ボンベイ間の大輸出が促進された。1893(明治26)年、日本郵船はタタ商会と共同路であるボンベイ航路を開設した。その結果、欧米諸国にたよらず量に輸入できるようになった。



→①インドのタタ財閥の創業者
インド大財閥であるタタは、綿紡績業から身を起こした。インドの初期機械紡績工場が国内の手織り織布職人(→p.108①)への綿糸の供給に終始するなかで、大規模な工場を建設し、輸出用綿糸や高級綿布を生産した。

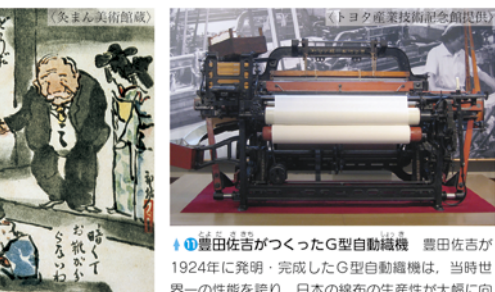


→②明治に開かれた定期航路
綿花を日本へ運んだ船は、帰りは大阪でつくられたマッチや石鹸など日用生活雑貨を積んで中国や東南アジアへ向かった。

Q 図①のA～Cに適切な地名を入れよう。

と日本

化した。中国へ輸出される綿糸はインド産がイギリス産を抜き、さ、激しい競争となった。20世紀に入り、第一次世界大戦が起ると、イギリス産綿糸を凌駕し、イギリスはアジアの綿糸競争から脱落した。



④ 豊田佐吉がつくったG型自動織機 豊田佐吉が1924年に発明・完成したG型自動織機は、当時世界一の性能を誇り、日本の綿布の生産性が大幅に向上した。29年には世界のトップメーカーであるイギリスの会社に技術提供も行った。

コラム「世界史の中の日本」

世界史における日本史との関連を取り上げたコラムです。日本と関連の深い本文があるページに設けており、日本史からの視点で、世界史を捉えられます。

→p.137

世界史の中の 日本

新規

東遊運動とファン=ボイ=チャウ

フランス植民地地下にあったベトナムの独立運動家ファンは、日露戦争(→p.145)で勝利した日本に武力援助を求めて1905年来日した。しかし亡命中の梁啓超(→p.146)から天養毅、大隈重信を紹介され、教育による人材育成の重要性を指摘された。ファンの呼びかけに応じて、出国が禁止されているなか200人ものベトナム人が留学してきた。これを東遊(東に留学の意)運動という。しかしフランスの介入で日本政府は留學生の帰国を命じ、医師浅羽佐喜太郎から資金援助を受けて残ったファンも09年に追放され、上海にのめられた。そこでその地で独立運動を展開したが、フランスに逮捕され、フェに軟禁されたまま没した。



→④ファン=ボイ=チャウ(1867～1940)

平成25年度版から6か所新設

コラム 世界史の中の 日本 / 一覧 計20か所 (■は新規)

p.8	世界で最古の土器	p.124	ペリーの来航とアメリカ
p.19	卑弥呼と聖徳太子の外交	p.129	注目されたジャポニスム
p.23	モンゴルから見た蒙古襲来(元寇)	p.133	日本とイスラームの出会い
p.55	正倉院の中の香辛料	p.137	東遊運動とファン=ボイ=チャウ
p.67	日本から見た日明貿易	p.143	日本産生糸と綿糸
p.73	アイヌの人々と蝦夷錦	p.145	日本の進路とアジアの人々
p.87	エカチェリーナ2世と日本の漂流民	p.193	核開発と第五福竜丸
p.90	海を渡った伊万里焼	p.201	日本にも広がった石油危機
p.109	日本での木綿の普及	p.205	“小さな政府”の影響
p.121	岩倉使節団とビスマルク	p.211	グローバル経済のなかの日本

ためになる！ ～世界史を学んで良かったと思えます 人々の経験を自らの気づきに！ 社会のし

四つの観点によるコラム 「未来へ活かす歴史」

現代世界と関わりの深い四つの観点から、本文で学習する歴史を掘り下げて扱っています。通史を学習しながら、現在の様々な事象やしぐみの形成過程の一端に気づき、将来に活かせる歴史的教訓も見いだせます。

コラム 未来へ活かす歴史 一覧 計52か所 (■は新規)

p.26	ヴァルナ制とカースト制	p.89	中国へのあこがれ
p.35	レバノン杉の伐採	p.91	新天地をめざす人々と先住民
p.39	三つの宗教の聖地 イエルサレム	p.104	ルーヴル美術館の誕生
p.45	ギリシア民主政の限界	p.105	“子供期”の発見
p.49	二つに分かれたキリスト教	p.107	独立後のハイチ
p.51	十字軍を通して出会った二つの世界	p.113	テムズ川の汚染
p.63	オスマン帝国の寛容策	p.117	チェコ人の苦難とミュシャ
p.65	ムスリムとヒンドゥー教徒の共生	p.119	植物園(キューガーデン)
p.72	朝鮮通信使と国交回復	p.125	故郷を追われる先住民
p.79	アメリカ先住民の苦しみ	p.127	科学技術の進歩とその課題
p.84	連合王国であるイギリス	p.135	改善されるインドの慣習

①人間の権利と自由の尊重

未来へ活かす歴史

マス=メディアと大衆社会

新規

19世紀になると欧米社会では、女性の参政権などを求める運動がさまざまな新聞を発行し、女性の権利を訴えた。フランスで19世紀末から20世紀初めに発行されたこうした定期刊行物の中には女性だけで編集・出版された日刊新聞もあった。一方、この時期は大衆をターゲットとしたマス=メディアとしての一般新聞が大いに発展した。労働者の間でも広く新聞が読まれるようになった背景には、労働者の家庭でも子供に学校だけは行かせようという考えが生まれ、男女ともに識字率が向上したことも関係する。しかしマス=メディアとしての新聞・雑誌の誕生は、反面でジャーナリズムに変化をもたらした。19世紀末のアメリカの人気新聞でイエロー=キッドという少年がさまざまな事件を漫画で風刺して紹介するという紙面づくりは、正確な報道よりも人々の興味をおおるようなものを優先する新聞の先駆けとなり、“イエロー=ジャーナリズム”という言葉を生み出すことになった。



仕事の情報求めて新聞販売所に集まる女性たち(1874年、ニューヨーク)

↑ p.151

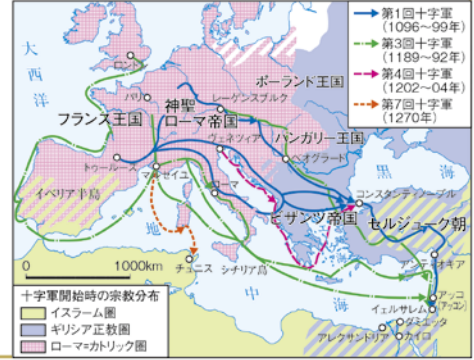
②異文化理解

未来へ活かす歴史

十字軍を通して出会った二つの世界

イスラム世界とキリスト教世界は、交易ばかりでなく文化においても強い関係をもっていた。イスラムの高い文化は、翻訳活動などによってシチリア王国やスペインを経由してヨーロッパにもたらされ、人々はギリシアやアラビアの哲学・科学に触れることとなった。このことはのちのルネサンス文化を準備する一因となった。

イスラム世界とキリスト教世界は十字軍運動など宗教や政治の対立の図式だけでとらえることは不十分である。両者がたがいの文化を尊重し、たがいの長所を取り入れて発展した面ももっていたことが、近年注目されている。



↑ p.151

◆日常のある場面

テレビでニュースを見ていると、女性知事がインタビューを受け、最近では選挙に行く人が少ないと言っていた。

◆帝国書院世界史Aで学んだ時の気づき

女性の首長や議員がいることや、平等に選挙権があることを自然に感じていたけれど、女性の権利獲得を目指した世界中の人々の努力があったからこそ、今があるんだな。

◆日常のある場面

夏休みに家族とイタリアに海外旅行に行った時、ミケランジェロの作品を見て、そのリアルさに驚いた。

◆帝国書院世界史Aで学んだ時の気づき

ヨーロッパの文化ってすごいなと感じていたけれど、イスラム世界との交流がなければ、ルネサンスのような文化も生まれなかったんだな。

人権の権利や自由については、今日当然とされることがどれだけ
の努力と犠牲のうで実現されてきたかを具体的に知って、初めて
その真の重要性や現在における問題を理解できるでしょう。

これからますます出会う機会が多くなる異文化を
理解するためには、まずそれぞれの文化の形成を
知り、文化の意味や深さを学ぶことが大切です。

くみの形成過程を掘り下げたコラム

平成25年度版から16か所新設

2部2章4節の「持続可能な社会をめざして」(p.218~223)で活かします！

p.147	民族問題の始まり	p.181	皇民化政策	p.205	人種差別への挑戦
p.151	マス=メディアと大衆社会	p.183	ホロコーストの悲劇	p.206	カンボジア内戦の傷あと
p.153	激変したハワイと伝統文化	p.185	一般市民への爆撃	p.209	チェルノブイリ原発事故
p.153	アパルトヘイト	p.191	国際連合の役割	p.213	イスラームの教えのとらえ方
p.155	差別されるユダヤ人	p.193	西ドイツの戦後補償	p.213	アラブ社会と新しいメディアの力
p.159	総力戦に巻き込まれる人々	p.195	韓国の兵役義務	p.214	天安門事件とマス=メディア
p.161	ロシアが抱える民族問題	p.197	独立後のアフリカの課題	p.215	日本の領土とまわりの国々
p.163	国際連盟の問題点	p.197	インドとパキスタンの独立	p.216	世界に広がる感染症
p.165	福祉国家の誕生	p.199	米ソ対立と地域紛争		
p.167	大衆化で問われるアイデンティティ	p.203	“死の時計”を止めるために		
p.177	経済危機からの教訓	p.204	“愛と平和”を訴えるロックフェスティバル		

③ 自然環境とのかかわり合い

未来へ活かす歴史

植物園(キューガーデン)

植物園は、世界支配のための一つの施設でもあった。ロンドン郊外のキューにある王立植物園“キューガーデン”は、1759年に開園した。世界中の植物を収集し、栽培されている植物2万5000種、標本は700万種を数える。それらの植物は品種改良ののち、植民地に移植されプランテーションで大量生産された。しかしプランテーションの展開は、現地にとっては巨大な環境破壊をも意味した。

↑ ⑤ キューガーデンの内部



↑ p.119

◆ 日常のある場面

週末、友人と植物園に行き、世界中の貴重な植物を見ることができたが、友人が、そもそも植物園って何のためにあるんだろうとつぶやいた。

◆ 帝国書院世界史Aで学んだ時の気づき

植物園は、最初はイギリスが世界支配のために作った環境破壊にもつながる施設の一つだったけど、今は逆に貴重な植物を守る環境保護の場所になっているんだな。



環境問題を考えるためには、問題が発生してきたいきさつをふまえることが必要です。

④ 共生

未来へ活かす歴史

経済危機からの教訓

アメリカに始まり、2008年末に本格化した世界経済の危機は、1929年の世界恐慌の記憶をよび起こした。どちらも、金融の過剰な投機が世界経済を危機におとし入れ、とくに29年の世界恐慌は各国のブロック経済化などによって深刻な事態を招いた。それに対して現在は、金融サミットが開かれ、各国から危機の克服に必要な資金を集め、ブロック経済化を防ぐための調整が行われるなど、国際協調と各国の金融・財政政策によって危機回避の努力がなされるようになった。

※イギリスのみ、1932年のデータ

	1926年	1931年
イギリス	4%	※10.0%
フランス	12	38.0
ドイツ	12	40.7
日本	16	24.0
アメリカ	29	53.0

↑ ⑤ 各国が輸入にかけた関税

↑ p.177

◆ 日常のある場面

電車で多くの就職活動中の大学生を見かけたけど、景気もなかなか安定せず、就職活動も大変そう。

◆ 帝国書院世界史Aで学んだ時の気づき

100年前にも同じように世界規模で景気が悪い時があったんだな。その時は戦争になったみたいだけど、なんだかんだいって平和でありがたいな。



共に生きる世界を追求することは、過去に行われた工夫や失敗を人類の大切な財産として身につけ、未来に活かすことで、初めて可能となるでしょう。

著者からのメッセージ

— p.5「はじめに」より抜粋 —

ためになる！ ～世界史を学んで良かったと思えます 現在と過去が結びつく！ 現代の社会的課題

世界史学習の大切さを実感できる四つの観点

2部2章4節「持続可能な社会をめざして」では、本文やコラム「未来へ活かす歴史」で学習してきた世界史の内容を、今日の社会的課題との関わりが深い四つの観点で振り返られます。現代世界の歴史的経緯を、現在と過去とのつながりを通して改めて認識し直せます。

4節

持続可能な社会をめざして

世界史の学習をふり返って

21世紀がどのような時代になるかは、これからの私たちの行動にかかっている。この節では、現在の世界で起こっている事例を参考に、世代をこえて環境・経済・社会のバランスが保たれる社会、「持続可能な社会」をつくるためのヒントを紹介する。ここで人間の権利と自由の保障、異文化理解、環境保全の課題を意識したうえで、共に生きる世界を築くためにはこれからどうしていけばよいか、一緒に考えていってほしい。

→①教育の重要性を訴えるマララ・ユスフザイ イスラム過激派の影響が強いパキスタンで女性が教育を受ける権利を求めていたマララは、過激派により頭を銃で撃たれた。けがから回復したマララは、国連総会ですべての子供が教育を受けられるように訴え、のちにノーベル平和賞を受賞した。



●テーマについて教科書をふり返ってみよう

教科書の各所で取り上げた内容を下の表にまとめている。それぞれの視点で歴史をふり返ってみよう。

権利と自由の歴史 (→p.219)	文化の形成と交流の歴史 (→p.220)	自然環境とのかかわりの歴史 (→p.221)
<ul style="list-style-type: none"> ・組織・身分の差が生まれる -p.9 【中国】 ・科挙—平等な役人任用 -p.18 【インド】 ・ヴァルナ制 -p.26 【ヨーロッパ】 ・奴隷に支えられた社会 -p.45 ・マグナカルタ(王に対して貴族の権利を認めさせる) -p.53 【植民地アメリカ】 ・インディアの強制労働・奴隷貿易 -p.79,91 市民革命 -p.84 1776 アメリカ独立宣言 -p.98 1789 フランス人権宣言 -p.100 ・人権思想の展開 -p.104 ・子どもと女性の地位の変化 -p.105 1863 ロシア農奴解放令 -p.122 1863 アメリカ奴隷解放宣言 -p.125 1848—インド サティ—の見直し -p.135 【参政権の拡大(19世紀末—)】 -p.150,165 ・アパルトヘイト -p.153,210 ・ユダヤ人迫害 -p.155,183 【社会権の誕生(20世紀)】 1919 ファイルマ憲法の成立 -p.164 人権思想の世界的な広がりが(現代) 1948 世界人権宣言採択 -p.191 1964 アメリカ公民権法の成立 -p.204 30年後—民主化の拡大 -p.210 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域の文化の形成 東アジア -p.10—23 【南アジア】 ・影響 -p.24—27 西アジア・北アフリカ -p.28—31 【ヨーロッパ】 ・影響 -p.51 南北アメリカ -p.56—57 各地域の宗教の成立 仏教 -p.27, ヒンドゥー教 -p.27, ユダヤ教 -p.35, イスラム -p.37, キリスト教 -p.48 ・十字軍を通して出会った二つの世界 -p.51 ・陸の道・海の道で結ばれるユーラシア -p.58 ・さまざまな影響を受けたルネサンス -p.74 大航海時代と世界の一体化の始まり ・ヨーロッパの遠征 -p.74 ・東アジアとヨーロッパの出会い -p.69,71,89,90 列強による植民地化と社会の変化 ・アジア諸国の変化 -p.130—147 ・戦時中の他民族への強制・排斥 -p.181,183 ・大衆文化の形成 -p.151,166 ・イスラム復興 -p.199,213 ・グローバル化と文化接触 ・冷戦後の民族問題の顕出 -p.209 ・グローバル化による経済・文化の一体化 -p.210 	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境と歴史 ・おもしろな気候植物と家畜の記録 →巻頭語 -p.10 ・草原と農耕地帯 -p.24 ・文明と河川 -p.28 ・モンスーンと海洋 -p.32 ・オアシスと乾燥地帯 -p.42 ・森林と開拓 ・古文明の広がり -p.30 ・レバノン杉の伐採 -p.35 ・ヨーロッパを襲ったペスト -p.53 ・ヨーロッパを結ぶ道—海の道 -p.58 ・南北アメリカ大陸産食物の広がり -p.80 【環境問題の始まり(19世紀—)】 ・産業革命による環境問題の始まり -p.113 ・天竺川の水害 -p.113 ・世界の農業の変化 -p.119 ・植物園の登場 -p.119 ・第二次産業革命(重化学工業) -p.126 ・天然ガムの広がり -p.136 【地球資源問題の始まり(20世紀—)】 ・石油資源にかかわる南南問題 -p.197 ・石油危機 -p.199, 201, 205 ・経済成長と環境破壊 -p.216 ・世界に広がる感染症 -p.216

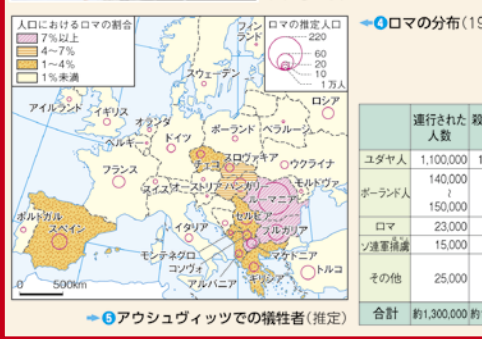
←p.218

①人間の権利と自由の保障

→②ルーマニアへ向かうロマ(2010年) フランス政府から飛行機として、1人につき300ユーロが渡された。



→③ロマの演奏と踊り ロマは音響子が多くことで知られている。このペリョダンスや、スペインのフレイタスなども、ルーツはロマにある。



現代世界の人権

1948年、国連総会で世界人権宣言が採択された。この宣言では生命の安全や生活水準についての権利がうたわれ、人権の思想が初めて全世界的に共通の理念とされた。自由や平等といった人権を保障する動きは、18世紀にアメリカ独立宣言やフランス革命の理念として掲げられ、文化・慣習の違いによる課題を生みながらも、世界中で認められるところとなった。

しかし現実には、21世紀の今日でも世界中に多くの問題が残されている。アフリカでは児童が奴隷のように売買され、これを現代の奴隷制とよぶ人もいます。伝統的な考え方から、婚前に異性と接した女性を「名誉の殺人」として殺す地域もある。こうした問題は、単に自由や平等を法によって保障するだけでは解決しない。宗教や文

四つの観点

- 観点① 「人間の権利と自由の保障」 p.219
→事例1：フランスから送還されたロマの人々
- 観点② 「対立から異文化との共生へ」 p.220
→事例2：よみがえる伝統工芸「ノクシカタ」
- 観点③ 「環境保全の必要性」 p.221
→事例3：ピョートル大帝の夢と枯渇する大アラル海
- 観点④ 「共に生きる世界をつくるために」 p.222

題から世界史を振り返る巻末特集

現代世界を掘り下げる「具体的事例」

ページ上部に各観点と関わる現代世界の社会的課題を、具体事例を掘り下げて提示しており、各観点から世界史の内容を振り返る際の足がかりにできます。

(※観点④の事例は設定していません。)

例1 フランスから送還されたロマの人々

2010年7月、フランス政府は不法滞在する移民の取り締まりを強化し、1990年代以降にやってきた1000人以上のロマに帰国資金を渡し、ルーマニアやブルガリアなどの出身国へ送還した。フランス政府は「ロマの帰国は自主的なもの」と説明したが、EU内(→p.211)では、原則、市民はどの国にも移動や居住をすることが許されており、民族を指定した規制はルール違反にあたる。そのため、フランス政府を非難するデモが各地で起こった。

ロマは「ジプシー」ともよばれ、ヨーロッパ最大の少数民族である。現在、ロマはEU内に約1000万人いるともいわれる。ロマは14～15世紀に「放浪の民」として知られるようになって以来、一貫して激しい差別の対象となってきた。とくに第二次世界大戦では、ナチ党によってユダヤ人とともに強制収容所に送られ(→p.183)、大半がそこで命を落とした。しかし、ロマとしての共通認識が弱いこともあって、自発的な要求がなされず、ユダヤ人と違って戦後の補償はいまもままとなつた。

戦後、西ヨーロッパではロマの生活は大幅に改善されたが、東ヨーロッパでは彼らの多くが低い生活水準であり続けた。社会主義政権が崩壊(→p.208)してEUが拡大すると、より多くの収入を求めて東から西へと移動するロマが増加した。しかし彼らは総じて所得が低く、固有の価値観をもつことから、治安を乱す存在とみなされるようになった。それが今回の送還につながったのである。

1990年代に入りロマへの戦後補償も始まった。ロマの人権保障は、今回の送還のような拒絶反応を伴いながらも、見直しが始まったばかりである。

(執筆協力:東京学芸大学 教育学部 加賀美雅弘氏)

化的な背景、経済格差、民族紛争、政府の体制などが複雑にからみ合っ、人権の保障を阻害するからである。

それでも人権の思想は世界に少しずつ広がっている。1980年代から東欧および東南アジアなどで、2011年には中東でも、権力の一極集中や言論統制等を行っていた独裁政権の崩壊が続いた。グローバル化に伴い、経済格差という不平等が拡大したが、一方で民主化の進展により政治や社会に参加できる権利も広まった。

■人権獲得の歴史から未来へ

人権の思想は、すべての地域に同じように広がっているわけではない。人々が人間らしく生きるためには、平和な世界を保つことや、一人ひとりが自己と他者の権利を尊重する意識をもつことが必要になる。私たちは人々の権利について考え、行動することが求められている。

←p.219

④共に生きる世界をつくるために



①東日本大震災時に泥で汚れた商店街の道を清掃する外国人ボランティアたち 東日本大震災の際には、日本国内だけではなく、海外からも多くのボランティアが被災者への支援に訪れ協力をした。

②植林をするワンガリ・マータイ(2007年) ケニアに生まれた彼女は、アメリカへの留学後植林活動を各地で展開、ケニアの任意的な当分の政権に対し、東欧にも立ち向かい、環境分野の活動家としては史上初のノーベル平和賞を受賞した。「もったいない」という日本の言葉に感銘を受け、世界に発信したことも知られる。



③日本語を学ぶオーストラリアの生徒 オーストラリアでは、多言語教育の一環としてアジアの言語も学ぶことができる。



■共生をめざす取り組み

歴史はさまざまな対立でいるどられているようにみえる。しかし一方で、紛争防止や平和への努力もなされてきた。17世紀のウェストファリア条約は、国家の主権を尊重し利害調整を行う主権国家体制をつくる基礎となった。そして現在では、内戦の増加やグローバルな経済を背景に、国家という枠組みを越えた動きも生まれて

問題を通して共生への取り組みに参加できる道も開けてきた。共に生きる世界への一歩は、すでに踏み出されている。

■共生模索の歴史から未来へ

1993年、国連開発計画が、国家間で行われる支援だけでなく、その国の中で暮らす人々の生活保障を重視する“人間の安全保障”という考え方に言及し、ひんぱんに使われるようになった。国家の主権を尊重しつつ、世界の個人々々の人権保障を追求する動きも強まっている。

現代世界の変化は、数世紀前とは比較できないほど速い。そのなかで、もう一度、人権の保障や異文化理解、環境の保全などへの取り組みについて考えたい。私たちは、自分自身の生き方や職業選択、社会生活を考えるとき、必ず現代の課題と向き合うことになり、過去の反省と教訓をふまえることが求められる。私たち一人ひとりが自ら考え、行動することによって、共生の社会、“持続可能な社会”は築くことができるのである。

↑p.222

歴史的経緯を振り返る まとめ表と解説

各観点ごとに、コラム「未来へ活かす歴史」や関連の深い本書のページを提示した まとめ表を掲載しています。さらに、現代世界の歴史的経緯を、学習してきた学習内容をふまえながら丁寧に解説しています。

教科書の全体構成

もくじ

世界の国々……………巻頭Ⅰ～Ⅱ
世界史へのいざない 自然環境と歴史……………巻頭Ⅲ

本書の使い方……………4
はじめに……………5

1部 世界の一体化と日本

1章 前近代の諸文明……………6

序節 人類の始まり

1 地球上に現れた人類と文明……………8

1節 東アジアの文明……………10

1 中国に生まれる統一国家 —中国文明の成立……………12

2 草原をかける遊牧民族
—東アジアのもう一つの勢力……………14

3 東アジアの国際的な大王朝……………18

4 諸民族によって統治された時代……………22

2節 南アジアの文明……………24

1 数々の宗教が成立した南アジア……………26

3節 東南アジアの文明……………28

1 外来文化を吸収した東南アジア……………30

4節 西アジア・北アフリカの文明……………32

1 オリエントの古代文明……………34

2 イスラームの誕生と広がり……………36

3 イスラームの拡大と分裂……………38

5節 ヨーロッパの文明……………42

1 ヨーロッパ文明の源流……………44

2 キリスト教と東西に分かれるヨーロッパ……………48

3 教皇の強大な権力と十字軍遠征……………50

4 ヨーロッパにおけるまちとくにの発達……………52

6節 南北アメリカの文明……………56

1 独自の文明を築きあげた南北アメリカ……………57

7節 ユーラシアの交流圏……………58

1 ユーラシアを結ぶ陸の道・海の道……………58

2章 一体化に向かう世界……………60

1節 繁栄するアジア

1 モンゴル帝国のあとにおこった諸大国……………62

2 イスラーム諸王朝の繁栄……………64

3 明の繁栄 — 再び咲いた漢人王朝……………66

4 清の繁栄 — 中国全土に広がる辮髪……………68

近世

36p

5 交易で結びつく東アジア諸国……………72

2節 大航海時代と新たな国家の形成

1 ヨーロッパで花開く個性と自由……………74

2 大航海時代の始まり……………78

3 ヨーロッパの新しい国際関係……………82

4 イギリスの革命とフランス絶対王政……………84

5 中央・東ヨーロッパ諸国の改革とロシアの拡大……………86

6 アジア・アメリカに進出するヨーロッパ……………90

3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺……………96

1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命

1 イギリスから独立するアメリカ……………98

2 ヨーロッパ近代化の出発点 フランス革命……………100

3 ナポレオンの支配からウィーン体制へ……………102

4 フランス革命と社会生活の変化……………104

5 大西洋を越えて広がる革命の波……………106

6 産業革命という大変革の開始……………110

7 資本主義の発展と社会主義運動の発生……………112

2節 自由主義・ナショナリズムの進展

1 1848年 — 19世紀の転換点……………116

2 “世界の工場”イギリス……………118

3 フランス第二帝政とイタリア・ドイツの統一……………120

4 ロシアの改革と東方問題……………122

5 南北戦争と戦後の発展……………124

6 科学の世紀 — 19世紀の文化と第2次産業革命……………126

3節 アジア諸国の動揺

1 オスマン帝国の弱体化……………130

2 侵略に抵抗するイスラーム諸国……………132

3 ムガル帝国の崩壊とインド大反乱……………134

4 東南アジアの植民地化……………136

4節 東アジアの大変動

1 中国と日本の開国……………138

2 アジアにおける工業化と日清戦争……………142

3 東アジアをめぐる国際関係……………144

4 孫文が導いた辛亥革命……………146

近代(前半)

52p

古代・中世

54p

2部 地球社会と日本

1章 現代社会の芽生えと世界大戦…………… 148

1節 現在につながる社会の形成

- 1 大衆社会の出現…………… 150
- 2 世界の分割を進めた帝国主義…………… 152
- 3 世界の一体化と人口移動…………… 154

2節 第一次世界大戦がもたらしたもの

- 1 ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張…………… 156
- 2 総力戦となった第一次世界大戦…………… 158
- 3 ロシア革命と民族の問題…………… 160
- 4 ウィルソンとヴェルサイユ体制…………… 162
- 5 第一次世界大戦後の列強…………… 164

3節 “民族自決”を求めて

- 1 中東・インドの民族運動…………… 170
- 2 東アジアの民族運動
一三・一独立運動と五・四運動…………… 172

4節 経済危機から第二次世界大戦へ

- 1 世界恐慌とローズヴェルト…………… 176
- 2 ファシズムの台頭
一ムッソリーニとヒトラー…………… 178
- 3 経済不況から日中戦争へ…………… 180
- 4 ヒトラーの要求と第二次世界大戦…………… 182
- 5 被害の拡大と戦争の終わり…………… 184

世界史年表…………… 224

人物さくいん・事項さくいん…………… 228

2章 冷戦から地球社会へ…………… 188

1節 冷たい戦争の時代

- 1 新たな対立と協調の模索…………… 190
- 2 対立する二つの陣営…………… 192
- 3 アジアの独立と経済発展への道…………… 194
- 4 第三勢力の形成と南北問題…………… 196
- 5 中東戦争とイスラーム復興…………… 198
- 6 アメリカ・ソ連の緊張と緩和…………… 202

2節 冷戦終結への道のり

- 1 ゆらぐアメリカと先進各国の変化…………… 204
- 2 経済発展に取り組むアジア諸国…………… 206
- 3 冷戦の終結と変わる世界構造…………… 208

3節 地球社会への歩み

- 1 グローバル化する社会と経済…………… 210
- 2 超大国アメリカと中東情勢…………… 212
- 3 日本を取り巻くアジアの動き…………… 214
- 4 地球的課題と解決への努力…………… 216

4節 持続可能な社会をめざして

- 世界史の学習をふり返って…………… 218
- 1 人間の権利と自由の保障…………… 219
事例1 フランスから送還されたロマの人々
 - 2 対立から異文化との共生へ…………… 220
事例2 よみがえる伝統工芸“ノクシカタ”
 - 3 環境保全の必要性…………… 221
事例3 ビョートル大帝の夢と枯渇する大アラル海
 - 4 共に生きる世界をつくるために…………… 222

現代世界の特徴や課題について調査し意見を述べよう! …… 223

世界史 頻出用語解説…………… 巻末 I

世界史に関連する映画を見てみよう! …… 巻末 II

近代
(後半)

40p

現代
(戦後)

36p

各種
特設

明解! 近現代史

- ①世界の主導権争い…………… 94
- ②革命の広がり…………… 114
- ③戦争の変化…………… 186

クローズアップ 生活・文化!

- 交流から生まれる唐の文化…………… 20
信仰にもとづくイスラーム文化…………… 40
豊かな生活と究極の理想を求めたギリシア・ローマの文化…………… 46
活気ある都市が生んだ明・清の文化…………… 70
花開くルネサンスの文化…………… 76
貴族が支えた17～18世紀のヨーロッパ文化…………… 88
市民社会から生まれた19世紀のヨーロッパ文化…………… 128
1920年代黄金期のアメリカ文化…………… 166

世界史へのいざない 日本列島の中の世界史

- 1 世界に知られた石見銀山…………… 92
- 2 幕末に伝わった最新技術と世界情勢…………… 140
- 3 工業化をもたらした近代綿紡績…………… 174

物を通して見る 世界史

- 一絹→2～8世紀 東方からもたらされる貴重品…………… 16
一香辛料→12～15世紀 大航海時代をもたらした原動力…………… 54
一じゃがいも→16世紀 ヨーロッパの食卓を変えた食材…………… 80
一綿→17～19世紀 庶民の服装を変えた流行の品…………… 108
一衣服→20世紀① 女性の社会進出とファッションの変化…………… 168
一石油→20世紀② なければ困る、万能な液体…………… 200

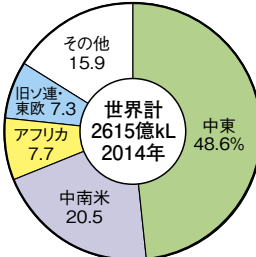
ユニバーサルデザインに対応 ー特別支援教育への配慮ー

① カラーユニバーサルデザインに配慮した見やすくわかりやすい色調

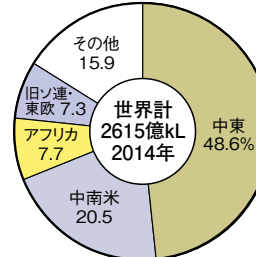
■ 色覚特性をもつ生徒が同じように見えてしまう色を隣どうしに配置しないことや、境界線を黒ではっきりと書くことで、グラフなどの資料を読み取りやすくしています。

* 色覚特性のD型とP型は、特性のなかでも代表的なものです。左右の図は、それらの色覚特性をもつ人の色の見え方をシミュレーションしたものです。

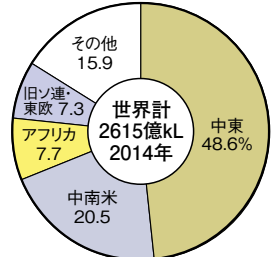
カラーユニバーサルデザインに配慮した図



D型色覚の人の見え方



P型色覚の人の見え方



↑ p.200 ② 原油の地域別埋蔵量

② 学習が進めやすい工夫

■ タイトル (節・ページ)、導入資料や図版・写真を各ページの同じ場所に配置し、見開きのレイアウトを原則統一することで、スムーズに学習を進められるようにしています。

■ 学習単元の部ごとに色を統一し、現在学習しているのがどの部であるのかが、一目でわかるようにしています。また、どの時代のどの地域の歴史を学んでいるのかをすぐに確認できるように、三つのインデックスも設けています。

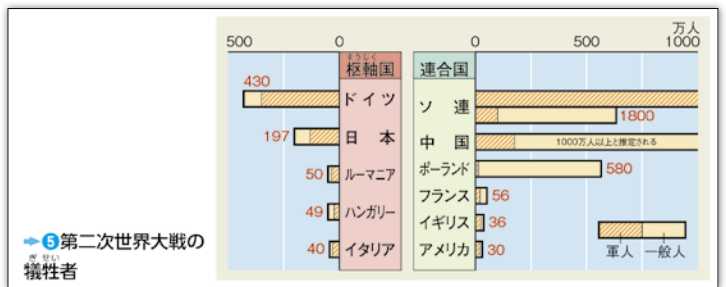
→ 本資料p.16-17で詳しく紹介!



③ 読み取りやすい図版表現

■ 図の周囲をグレーで囲むことで、どこまでが同一の資料であるのか、わかりやすくしています。また、図の周囲を暗くすることで色のちらつきを抑え、読み取りに集中できるようにしています。右の図の場合、複数の棒グラフがまとめて一つの資料を構成することがわかります。

→ p.185



④ 読みやすく誤読を防ぐ文字

■ 教科書の見開きタイトル、本文、図版タイトルなどには、ユニバーサルデザインフォント (UDフォント) を使用しています。これにより、文章が読みやすくなり、誤読を防げるようにしています。

UDフォント

べいせい 98年の米西(アメリカ-スペイン)戦争を転機

- ・ ふりがなはゴシック体にして見やすくしています。
- ・ 濁点部分のすきまを充分確保して視認性を高めています。
- ・ 横画を太くすることで、視認性を高めています。

授業への万全のサポート

教師用指導書、指導者用デジタル教材、準拠ノートなど、世界史授業の周辺教材を充実させ、万全のサポート体制を整えております。弊社「高校教科書・副教材カタログ」および、「高等学校指導者用商品・サポート案内」に詳細情報を掲載しています。あわせてご覧ください。

見本

サンプル

ご審査用見本、または部分サンプルをご用意しています。弊社までご連絡ください。

教師用
指導書

明解 世界史A 指導資料 DVD-ROM付

- ・①指導用教科書（朱書き）、②研究編、③教科書関連データDVD-ROMを収録しています。
- ・パスワード認証の「webサポート」をご利用いただけます。
- ・①指導用教科書（朱書き）は単品販売もあります。教科書の見開き単位で、本文や図版・写真の解説、板書例などを掲載し、ご専門外の先生にも手軽にお使いいただけます。

サンプル

指導者用デジタル教科書ベーシック版 明解世界史A

- ・教科書本体の誌面をはじめ、掲載図版ごとのデジタルデータを収録しています。

サンプル

教材備品

指導者用デジタルコンテンツ集 世界史（Windows版/iOS版） 学習者用デジタルコンテンツ集 世界史（iOS版）

- ・弊社世界史資料集のデジタルデータなどを収録しています。デジタル教科書と組み合わせるとさらに便利にお使いいただけます。

サンプル

準拠
ノート

明解 世界史Aノート

- ・豊富な地図作業で、基礎的地理認識と歴史事項の空間的な整理を万全に行えます。
- ・章ごとの地図と表を使ったまとめや演習問題ページで、学習事項を定着できます。

見本

ウェブ
サイト

- ・最新の写真・資料・統計など豊富なコンテンツを収録しています。
- ⇒<http://www.teikokushoin.co.jp/>

定期冊子

世界史のしおり

- ・年3回無料でお届けしています。
- ⇒ご希望の方は、弊社までご連絡ください。一部バックナンバーもご用意しています。

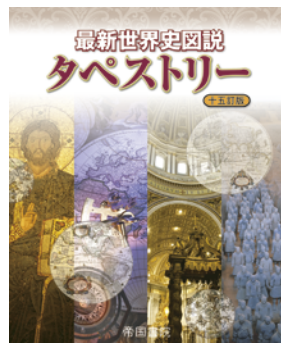
弊社 世界史の教科書・資料集のラインアップ



明解世界史A (世A-314)



新詳世界史B (世B-312)



最新世界史図説タペストリー



明解世界史図説エスカリエ

特色一覧

※本資料および下記の表データは弊社ウェブサイトにて閲覧・ダウンロードできます。

項目	特色
総合的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ◆豊富で迫力ある写真や図版、「人物」「物」「生活・文化」「日本とのつながり」などの身近な視点により、世界史への興味・関心を促しながら、多面的・多角的に学習できる。 ◆特設ページ「明解！近現代史」や因果関係の記述が充実した本文により、複雑な近現代史を効果的に理解できる。 ◆現代社会とつながる視点により、世界史からより良い未来を築くヒントを得られる教科書になっている。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆生徒に身近な視点や日本史との関連、近現代史の流れを理解できる内容が充実している。 ●世界史に影響を与えた「人物」や「物」など、生徒に身近な観点が重視されており、世界史のおもしろさや楽しさを実感しながら学習できる。また、それらを通して、ものごとを多面的・多角的に捉えるための視点も同時に育めるようになっている。 ●生徒の日常とつながりやすい「生活・文化」の観点が重視されており、生徒が親しみをもって取り組めるようになっている。 ●「日本史とのつながり」が重視され、日本と世界の相互的な関係を多面的・多角的に捉えることができる。また、巻頭・巻末には年表「日本の歴史」が設置されており、生徒が中学校で学んだ日本史の事象を振り返りながら世界史の学習を進めることができる。 ●近現代史をテーマで捉える特設ページ「明解！近現代史」が設けられており、複雑な近現代史を体系的に整理して理解できる内容となっている。また、近現代史の大きな流れを確認でき、歴史の転換点や推移・変化が捉えやすくなっている。 ●2部2章2節の「持続可能な社会をめざして」やコラム「未来へ活かす歴史」が設置され、人権保障・異文化理解・環境保全・共生という四つの視点から歴史を振り返られるようになっている。これにより、「共生できる社会」「持続可能な社会」を築くために、世界史を現在や未来にどう活かすかという視点が明確になるようになっている。 ●宗教・思想に関するコラムが設置されており、おもな世界の宗教・思想への理解を促し、異文化理解の基盤となる知識を育むことができる。
構成・分量	<ul style="list-style-type: none"> ◆1時限1見開き構成で、前近代史と近現代史が充分かつバランスよく掲載されている。 ◆近現代史が充実しており、学習指導要領の目標である近現代史を中心とした世界史学習を偏りなく万全に行えるようになっている。 ●各地域の前近代史(1部1章・2章)が丁寧に紹介されており、近現代史を理解するために必要な知識を習得しやすいよう配慮されている。 ●原則、1時限1見開きとしてあるので、分量が適量で学習計画を立てやすくなっている。 ●各章の冒頭に設置された「扉」により、学習する時代の全体像を見通しやすく、スムーズな世界史学習を促せるようになっている。 ●巻頭に設置した世界全図や、1部1章に設置した各地域の「風土ページ」により、生徒が空間認識を十分身につけられるようになっている。 ●巻末の特設ページ「世界史頻出用語解説」で、生徒が聞き慣れない歴史用語を丁寧に解説している。
表記・表現および使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ◆AB判の判型を活かし、写真や資料が大きく掲載されている。 ●AB判のワイドな判型が活かされ、写真やグラフ、地図などの資料が大きく豊富に設けられており、視覚的に理解しやすくなっている。 ●本文ページの左上には、導入資料と発問「ここに注目」が設置されており、生徒が資料を比較したり読み解いたりし、考察する力を身につけられるよう工夫がなされている。 ●歴史事象の因果関係の記述が充実し、わかりやすい平易な本文となっている。また、ふりがなやゴシック(太字)も効果的に振られている。 ●本文の行間には、関連する事項を扱っているページへの参照ページや、関連図版・コラムへの図番号・参照マークが割り当てられている。 ●カラーユニバーサルデザインを採用しており、色覚特性をもつ生徒にも読み取りやすい表現になっている。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●写真や図版資料が映える、発色の良いコート紙が使用されている。 ●1年以上の使用に耐えうるよう、堅牢な製本になっている。 ●環境に配慮した再生紙と、植物油インキが使用されている。 ●教授資料や準拠ノートをはじめ、充実した周辺教材が準備されており、教科書との併用で効果的な学習ができる。

監修者

岡崎 勝世 (埼玉大学 名誉教授)

◆ドイツ近代史

著作者

近藤 一成 (早稲田大学 教授)

◆中国宋代史

小林 亜子 (埼玉大学 教授)

◆フランス近代史

黒木 英充 (東京外国語大学 教授)

◆東アラブ近現代史

工藤 元男 (早稲田大学 教授)

◆中国古代史

松重 充浩 (日本大学 教授)

◆中国近現代史

相澤 隆 (東京大学 教授)

◆ヨーロッパ中近世史

川手 圭一 (東京学芸大学 教授)

◆ヨーロッパ近現代史



株式会社 帝国書院

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29

TEL 03(3262)0831 URL <http://www.teikokushoin.co.jp/>

※本資料の掲載ページには、編集中的のものも含まれます。